

技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 冬季号<第146号> (令和8年1月15日発行)



世界初の本格的な海上空港



ターミナルビルは国土交通省が設置管理



空港となる以前の箕島
箕島の古写真<大村市街地側からの撮影。右が北側方向>
(大村史談会発行、大村史話・下巻313ページ写真より)

現・長崎空港の南西側(旧・箕島の南西側)
<対岸の長与町側から2005年9月11日に撮影>



大村市街地と空港を繋ぐ「箕島大橋」

「長崎空港」開業50年を迎えて

大村湾のほぼ中程、海岸から約2Kmに浮かぶ箕島全域を開発することで、1975年5月1日に世界初の本格的な海上空港として開業した。開発前、島民の方々の家屋移転交渉には、当時の久保勘一知事が直接出向き、「盃を酌み交わす」ことで、理解をいただいたとのこと。私も、県職員として久保知事より入庁辞令をいただき、その事は知っていたので、すごく感動したのを覚えています。

出展：ウイキペディア

しみず まさあき
清水 正明 (建設、上下水道、総合技術監理・長崎)

目次

| | |
|--------------|---|
| 巻頭言 | 1 |
| 私の提言 | 2 |
| 声の広場 | 3 |
| 熟練技術士の声 | 5 |
| 会員の多様な声 | 6 |
| 土木遺産シリーズ(42) | 7 |
| 私のチャレンジ | 8 |
| ミニ特集 | 9 |

| | |
|----------------|----|
| 中央・統括本部情勢 | 12 |
| 委員会・部会報告 | 13 |
| 九州本部事業計画・役員名簿 | 20 |
| 支部だより | 22 |
| 青年技術士交流委員会勧誘記事 | 24 |
| CPD報告 | 25 |
| 会員ニュース | 26 |
| 協賛団体会員 | 27 |

「新年の挨拶」

九州本部長 ^{さ た け} 佐竹 ^{よ し ろ う} 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



新年明けましておめでとうございます。皆様、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、大阪・関西万博の開催、世界陸上競技選手権大会の東京開催、ノーベル生理学・医学賞に坂口志文氏、ノーベル化学賞に北川進氏と2人の日本人が授与されるという嬉しい年でした。

また、7月に参議院議員通常選挙が実施され、自民党が過半数を割りました。9月の自民党総裁選を経て、自民党と日本維新の会による新たな連立政権が発足し、10月に高市早苗氏が日本初の女性内閣総理大臣に選出されました。高市早苗内閣は、積極財政を推進、GDP比2%以上を念頭に防衛力の抜本強化、憲法改正の実現、伝統的な価値観を重視した保守的な政治姿勢の実現を目指しています。インフラの整備には追い風になると期待しています。一方、財政規律や外交、社会の多様性への対応が主な課題になると思います。

次に、九州本部では、技術士会会員を増やす目的で、4月より協賛団体会員の扱いに関する規約を変更しました。協賛団体会員の社員は1名無料でCPDに参加できるようになっていましたが、技術士・士補資格のある正会員以外の社員1名に変更し、2名を超える社員は正会員と同額で参加可能を追加しました。また、遠隔地の協賛団体会員が、各県支部の特定のCPDに参加できるよう規約を明示しました。しかし、社員は正会員と同額で参加できるように留めました。

次に、統括本部と九州本部の連携を強化するため、7月から統括本部の常設委員会7委員会のうち6委員会に委員を出すようにしました。2つは新しく企画委員会と研修委員会に委員を出しました。また、個別規定による委員会のうち、技術士資格活用委員会にも新しく委員を出しました。統括本部の委員会の中で、九州の委員が十分な役割を果たして行って欲しいと期待しています。

次に、第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)を、テーマ「かたろう技術のミライ×つなごう技術のチカラ 集え～火の国・水の国～」で、10月25日～28日に10年ぶりに九州本部担当で開催し、大盛会で終わることができました。素晴らしい全国大会であったと評価を受けています。参加総数は627名、式典474名、交流パーティー342名、分科会(第1～第4)414名などの参加者でした。実行委員会の皆様等の尽力に感謝いたします。

新年度の主な取り組みとしては、「地域産学官と技術士との合同セミナー」を九州本部では原則として隔年で実施してきていますが、本年は開催する年です。福岡での第3回CPDに代わり、2026年10月頃に福岡市で開催することにしています。今後、日時、会場、テーマの設定など具体化していきたいと思っております。

最後に、本年も、会員の皆様方の技術士会活動での活躍を祈念しまして、新年の挨拶といたします。

所属：株式会社新世コンソーシアム
(E-mail:satake-yoshiro@ina.bbiq.jp)

『65歳を過ぎても筋力アップは可能 ～筋活の勧め～』

もりなが やすひろ
盛永 保弘
(農業・佐賀)



「65歳を過ぎて、体力が落ちた。疲れやすくなった。」そう感じている貴兄、貴女もいらっしゃるのではないだろうか。私も今年、65歳になった。還暦過ぎたころまでは、まだそうでもなかったが、65歳を過ぎてにわかにそう思うようになった。まだ、65歳にならない諸君は、ご笑読いただければ幸いである。

まず、私のこれまでにについて年代別にまとめて書いてみようと思う。

(20代) 地元のコンサルタント会社に入社して、右も左もわからずに残業続きで頑張っていた。深夜まで残業して、そのまま飲みに行ったりもしていた。

(30代) 20代とあまり生活は変わらず、不規則な食事と睡眠、そして暴飲暴食を続けていた。ただ、残業続きになると、朝起きるのが少しづらくなった。

このころ体重が68キロまで増加していた。大学卒業当時は、53～54キロだったので、15キロくらい太っていた。

(40代) さすがに30代のころのように体が思うようにならず、残業が続くと「ダルオモ」状態になった。47歳の6月に「事件」は起こった。朝起きて、いつものように煙草をくゆらせたあと、家の中を歩くと少し胸が苦しい。なにかなと思いつつ車で会社に向かうと、その途中で胸が「ウツツ」となった。まさしく「ウツツ」である。すぐに病院に駆け込み診てもらった結果、診断は「狭心症疑い」だった。医者からは、「このままの生活を続けていたら、早死にします。」と言われた。不摂生の祟りである。

これではいけないと思い、まず体重を減らすことから始めた。体重を減らすには、食事と運動だと考えた。食事は、夕食の量を減らし、最初にキャベツの千切りを食べた。晩酌は週に3回にとどめた。運動は、大学を卒業してからまともにやったことが無かった。なにをやろうかと考えて、ウォーキングを始めた。一日5キロを歩き、一年程度で58キロまで落とした。

(50代) なんとか食事とウォーキングで60キロ弱

の体重をキープし、やや健康な生活を取り戻した。

還暦を過ぎて慢心がでてきたのか、ウォーキングもさぼりがちになり、体重が60キロを超えるようになってきた。現在では、63キロ平均である。前述したように、65歳を過ぎて体力が落ち疲れやすくなった。またまた「これではいけない」何とかしなければと思い始めた。そんな時、何気なくテレビを見てみると「元気で一生歩ける体、一生動ける体」と題した特番があり、「筋活」が紹介された。

そこでは、筋肉を鍛えることで、老化のスピードを緩めることができるとの説明があった。還暦を過ぎてからの筋活は、特に下半身の筋肉量、筋力をアップすることが重要であるとのことだった。このテレビを見ていた私は、「これだ」と思い、何から始めようかと考えた。

そこで、いろいろな本などを参考に、スクワットが良いことが分かった。特に、「まき割スクワット」に効果がある。やり方は、ネットで検索するとすぐ出てくる。これは、速筋(瞬発的な力を発揮する筋肉)をピンク筋に変える効果がある。ピンク筋とは、瞬発力と持久力の両方を兼ね備えた筋肉のことだ。還暦過ぎの60代は、健康長寿のための大きな壁と言われている。体力の衰えや疲れやすい65歳オーバーは、「ピンク筋」を鍛えることが有効だ。私は、まき割スクワットを一日に10回1セットとして、3セットを週に3回程度やっている。

また、令和7年10月からは、一念発起して、会社の近所のジムに通い、トレッドミルやバイク、ストレーンスマシンなど少しずつ時間を決めて行っている。

あなたは、「元気で長生きコース」か「寝たきりまっしぐらコース」かどちらを選びますか。答えは決まっていますね。さあ、「筋活」を始めよう。

所属：株式会社親和コンサルタント
(E-mail : yasu@sinwa-consultant.jp)

佐世保工業高等専門学校 出前講座

おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



長崎県支部で、長崎県佐世保市にある佐世保工業高等専門学校で技術士に関する出前講座を行う機会を得た。そのきっかけは、設立10周年の記念誌の配布に同校を訪れた山口長崎県支部長が担当教授と技術士制度について論じる中で、JABEEの認定をうけているにも拘らず専攻科の生徒には一次試験合格を卒業の必須条件としており、技術士制度・試験の仕組みを知らないまま受験しているとのことであった。

教授は能力ある学生を社会へ排出することを目的としており、その一環として一次試験合格を学生の能力を証明するひとつの要素にしたいというものであった。今年7月下旬に専攻学生の午後の空き時間を利用して出前講座として実施した。

1. 講座内容

内容は3人の講師役が1時間を3つに分けて行った。

1) 技術士制度について

「技術士の活躍に期待する」という土光敏夫の哲学の紹介をメインに、技術士の活躍の場はほぼ全職種に及び、その役割は高い価値観で社会に貢献することである。

また、技術士は専門技術に加え、コミュニケーション・プレゼンテーション・マネジメントの能力を必要とし、現在10万余人の登録者がいることを紹介された。

2) 合格体験談

橋梁・コンクリートの技術士である講師が、現在担当している業務（橋梁設計・点検補修設計業務）について紹介して、さらに技術士受験の動機として、①業務に必要な資格、②手当など金銭的に有利、③技術者としての証明の3つを挙げた。

さらに勉強法として技術士コンピテンシーの重要性の認識による効率化を説いて、最後に青年技術士として、今後、後進の育成やさらなる地域貢献に努めたいとして締めくくった。

3) 機械・化学部門技術士による事例紹介

三菱重工のOBである機械部門の技術士が、実際の業歴の中から火力発電用ボイラ部門における設計からアフターサービスまで世界を駆けた業務を紹介した。さらに、化学部門からは三菱重工に2024年現在1,700名の全国の高専出身の技術者が活躍していることを紹介され、業務として火力発電所排ガスから効率的にCO₂を回収、固体酸化物形燃料電池(SOFC)ハイブリッドシステムを市場投入、高機能排ガス処理装置などの研究成果が披露された。

2. 聴講生の反応

聴講生に対し行ったアンケートでは、技術士という名称については8割程度知っていると答えたが、実際の技術士制度の認知については6割程度であった。

また、講座の内容について、技術士制度の説明は5割、合格体験談については7割、業務の状況については6割が有意義であったと回答している。

その上で、もっと多くの職種で技術士の役割・活躍が聞きたい、合格体験談をもっと聞きたい等の意見に加えて、現状の技術士制度の問題点や、今後の目標は？など厳しい質問もあった。

3. まとめ

今回聴講頂いた専攻科生43名中、男子は32名、女子は11名で、機械工学、電気電子工学、情報工学、化学物理工学からの複合科からなっている。令和6年度では、就職68%で県内外の有名企業に就職し、進学は32%で九州大学など全国の大学院に進学している。

このような学生が今後技術者として活躍することに頼もしささえ覚え、いずれは技術士となって社会に貢献してくれることを望まずにはいられません。



所属：株式会社五省コンサルタント
(E-mail : s.orita@zb4.so-net.ne.jp)

II

全国の伝建地区を 巡る旅 ～名所編～

まつざき かずお
松崎 和夫

(建設、総合技術監理・大分)



令和に改元された5月1日を契機として、全国で129地区ある国選定の「重要伝統的建造物群保存地区」(以下「伝建地区」と呼ぶ)を巡る旅を始めた。伝建地区の中には京都や金沢、函館など有名な観光地として全国に知られているところも数多くあり、カウントしてみると現在、55地区訪れている。

「伝建地区」は、武家町や商家町、在郷町などの町並みについて昭和50年の文化財保護法の改正により創設され、新しいカテゴリーの文化財と言えるものである。私は行政職の時代に、大分市の南部地区に位置する戸次本町(へつぎほんまち)地区の歴史的町並み再生に関わる業務を担当したことをきっかけとして、建造物や歴史的な町並みの奥深さに魅了されてしまった。

今回は、特に名所をご紹介します。まず、名古屋市の有松地区。名古屋駅から名鉄名古屋本線を東京方向に向かい、途中熱田神宮を経て約30分のところである。普段着物を召される方や染め物に興味を持たれている方は有松絞りとしてご存知だと思う。ご当地はかつて東海道五十三次の街道筋の絞りや染め物のまちとして賑わっており、現代では、全国からまちづくり関係者数百人が集う全国町並みゼミの第1回と第40回を開催している、言わばまちづくりの横綱格である。旧街道筋には屋根全体にいきわたるような大きな「うだつ」を載せた豪華な商家が建ち並ぶ。驚いたことにこの有松絞りは豊後絞りがそのもととなっているという。名古屋城の築城に訪れた加藤清正公が、豊後絞りの職人(大分市鶴崎地区)を引き連れており、そこから有松に絞りが根付いたらしい。



旧東海道筋「有松」の町並みと連なる歴史的建造物

次に京都市である。京都は、まち全体が伝建地区といっても過言ではないかもしれないが、四地区が選定されている。「産寧坂」、「祇園新橋」、「上賀茂」、そして「嵯峨鳥居本」である。産寧坂は、清水寺に向かう人気の観光スポットでありながら、裏路地のような石堀小路は喧騒を離れて静かな佇まいである。祇園新橋は、連なる茶屋町と通りに沿った竹矢来が遊行の地としての風情を一層際立たせている。上賀茂は、上賀茂神社に仕える神官の社家町としての町並みである。各屋敷へは明神川に係る石橋を渡ってアプローチし、土堀を有するなど武家屋敷と見まがうばかりである。嵯峨鳥居本は、嵯峨野の最も奥で火伏の神として信仰を集めている愛宕神社参詣の門前町としての町並みが形成されている。京都の夏の風物詩五山の送り火の一つである鳥居型としても京都人には馴染みである。これらを訪れることで、洛中の社寺巡りとまた違った趣で新しい京都を堪能できること間違いなしと勝手に思っている。



水路に掛かる石橋が特徴的な上賀茂神社社家の町並み

伝建地区を訪れる際にはなるべく地区のまちづくりに関わられた方々にお会いして、苦労話や地区の自慢できることを直にお聞きするように努めている。そこにはパンフレットやA1からは得られない事実と貴重な参考となる素材やストーリーが隠れている。そして、予想だにできなかったほかの伝建地区との関係やかつての大分(豊後)との繋がりが見えてくることもある。ITデトックスとまでは言わないが、歴史を紐解きゆったりとした時間に想いを馳せながら、銀鼠色の粘土瓦や真っ白な漆喰壁、リズムミカルな竹矢来などに囲まれた至福の時空に浸ることができる伝建地区を巡る旅である。

所属：(公社)大分県建築士会
(E-mail: maymark56@yahoo.co.jp)

熟練技術士の声

技術士を目指して 過去・現在・未来

たぐち おさむ
田口 修

(建設、応用理学、総合技術監理・大分)



1. かつての技術士試験

私が技術士を目指したのは平成4年(約33年前)、まだ若手技術者と呼ばれていた29歳の頃です。

当時の試験は、午前が9時～12時まで経験筆記、午後1時～5時が専門筆記という構成で、記述士と擲揄されたように、12,000文字を800文字詰め原稿用紙の表裏にひたすら書いていく方式でした。

この頃はインターネットがまだ整備されておらず情報は限られ、参考書も少なく、筆記試験の結果を思い出せば試行錯誤で試験対策する状況でした。

数少ない参考書には、“45歳を越えないと合格は難しい”という記載もありました。

2. 技術士試験への挑戦

技術士という資格は大学生の時、他業種の技術者であった父から聞き、昭和58年に入社した現在の日本地研の顧問であった古川和代先生から「地質屋は技術士になって一人前」と教えられました。

そうして入社7年が過ぎた29歳、初受験に挑戦しました。Ⅰ期目の3年はチャレンジの期間、次の3年間で合格を目指し、最後3年を絶対防衛ラインと決めました。最初の3年はもちろん全敗で終わり、Ⅱ期目の3年間も合格通知は届きません。途中から惰性で受験していたと反省し、36歳の時に1年間の充電期間を入れた後にⅢ期目に臨みました。

この判断が功を奏したのか再挑戦の7年目、37歳で筆記合格、口頭試験も無事に終了して念願だった応用理学部門の技術士になることができました。

3. 技術士になった切掛け

技術士資格は、父や社内技術士から聞いていたので“取得できればいいかな…”くらいでしたが、実際に技術士が必要と強く思ったのは同業他社の技術者と国交省業務で一緒に仕事をした時のことです。

応用地質、基礎地盤コンサルタンツ…日本トップの地質調査会社の現場代理人は課長で技術士、一方、私は地方の中小企業の地質調査会社で係長、資格は地質調査技士しか持っていません。この差は私の中でとても大きなものであったと記憶しています。

技術・品格・信頼で彼らと同じ高みに立ちたい…その実現達成には技術士になるしかない！…

受験を1年見送った36歳の時のお話しです。

4. 新たな技術士部門…総監部門への挑戦

技術士になって3年が経過した頃、総合技術監理部門が新設されるという情報が発表されました。

「また受験か…」という憂鬱な気持ちで技術士会主催の説明会に参加しました。会場では反対意見も多かったのですが流れは変わらず、再び受験モードに入らざるを得ない状況になりました。総監部門は技術屋にとって雲を掴む内容で、「青本」と呼ばれる参考書1つが勉強の手掛かりでした。

それでも“早めに取得した方が楽”という情報があり、4回目の受験で合格を頂くことができました。

技術士試験には「重願」制度があり、同じ年度に一般部門も受験できたので、総監部門の受験勉強が活かせる建設部門をついでに受験し合格しました。

5. 技術士活動と役割

技術士は管理技術者や照査技術者の有資格要件になるので、取得後すぐに業務の中心的役割を担い、業務の効率の推進や受注活動に役立たせました。

所属する大分県支部では、専門技術講習の講師や全国大会への参加、西日本技術士大会では九州地区代表として発表の機会を与えて頂くなど、広い地域で技術者交流をすることができました。

さらに、国交省など一次官庁は総合評価型入札の制度が導入され、技術士は指名を受ける条件となり、提案書は技術士経験を活かした工夫や新技術、品質確保や安全管理のほか、総監部門のコンピテンシーのあり方も随分役立ちました。

6. 今の技術士としてすべきことは次世代の育成

60歳も半ばを過ぎ、実務での管理技術者から会社経営の事務管理が多くを占めるようになりました。

現場で山間を歩く機会が減り寂しく感じることもありますが、技術士として得た多くの知識や経験、同業・異業種との交流は社内外で役立っています。

総監は受験当時から“経営者の技術士資格”と聞いていましたが、今まさにその実体験中です。

会社代表としての社内監理、社外では技術協会の理事や技術委員会活動に役立っています。

一方、後進指導として社内に“技術私塾”を設置し、技術士取得に向けたかつての熱い思いを20～40代の社員に発信している最中です。将来の社内技術士を増やし、会社を安定経営することが技術士として今の私の重要な役目・役割となっています。

所属：日本地研株式会社代表取締役
(E-mail: tag@chiken.co.jp)

回 想

熊本県支部長 たかやま ゆうじろう
高山 祐二郎
(建設、CPD認定・熊本)



私は、県庁土木部で38年間土木行政に関わってきた。建設業界は、地域のインフラの整備や維持管理等を担うだけでなく、災害発生時には、最前線で復旧作業に着手する地域の守り手としての重要な役割を担っている。県庁退職後は、日本技術士会熊本県支部の活動に携わり多くの仲間と出会えたことに感謝したい。

今回、日頃感じていることを以下に記述する。

1. 建設業界の現状と将来性

建設業界は、地域にとってはなくてはならない存在であるにもかかわらず、インフラ整備だけでは生き残るのが難しいというジレンマを抱えているのが現状ではないかと考える。その主な内容として、人手不足と高齢化、2024年4月から残業時間上限規制の適用、労働力不足がさらに深刻化し、工期遅延などを招くリスクがある。他業界に比べ労働生産性が低いという構造的な課題もある。

建設業界の将来性は、建物やインフラ等社会に不可欠であり、需要がなくなることはないため、産業としての将来性は高いと考える。また、技術革新(DX)の推進は人手不足対策として、AIや自動化ロボット、デジタル技術(DX)の導入が加速していくことで、生産性向上が期待される。労働環境・待遇の改善としては、国や官民一体で取り組むことで、業界全体のイメージアップも期待される。特に、多様な人材の活用も必要で若年層や女性のほか、外国人労働者の活用も不可避となっており、受け入れ態勢の充実が必要となっている。

課題は山積みしているが、変革の波に対応し、新しい技術や働き方を取り入れることでチャンスが多い業界ではないかと考える。また、国土強靱化に向けた取り組みは、自然災害の多い日本において非常に重要であると認識している。

2. 技術士制度について

技術士の国家資格自体に有効期限や自動失効制度はない。一度取得し登録すれば生涯有効な資格であり、資格を維持し社会的な信頼性を保つために、多くの会員の方が継続研鑽(CPD)に努められていると思う。

現状の主なポイントを以下に示す。

- (1) 資格の有効性：技術士の資格は、一度取得すれば失効することはない。
- (2) 法的な責務：技術士法第47条の2により、技術士は常に科学技術の進歩に対応できるよう、資質向上のための継続研鑽(CPD)に努めることが義務付けられている。
- (3) 更新制度の議論：現在のところ、他の一部の資格のように法的な「更新研修」の受講義務はない。しかし、社会的な信頼性や国際的な同等性を確保する観点から、将来的な更新制度導入については文部科学省などで議論されてきた。
- (4) CPD認定会員制度：公益社団法人日本技術士会には、積極的にCPD活動に取り組んでいることを証明する「技術士CPD認定会員」という任意の制度がある。この認定の有効期間は5年間で、継続するには更新手続きが必要である。

技術士資格そのものは永年有効ですが、技術士としての能力と倫理を維持・向上させるための継続研鑽(CPD)は、常に努めるべきであると考えます。

このような中、日本技術士会が継続的な資質向上に努めていることを認定する「技術士(CPD認定)」制度は、技術士法第47条の2に規定される「技術士の資質向上の責務」を果たす公的な仕組みとなっている。この「技術士(CPD認定)」を受けることで、第三者に対して自己研鑽の努力を客観的に証明できるのである。認定された技術士は、ロゴマークを使用することができ、名刺やウェブサイトなどで認定者であることをアピールでき、社会的な信頼性が向上するものである。

今後は「技術士(CPD認定)」会員が増加し、更新制度のない中で、技術者として自己研鑽に努めていることを客観的に評価して公共入札等の際に有利に働くことを期待したい。また、「技術士(CPD認定)」制度が注目されれば、日本技術士会への加入者が増え、CPD研修会に多くの方が参加することも考えられる。

3. 結びに

建設業界は、安全安心な地域づくりのために引き続き貢献していくことが求められている。技術士は、資質能力を高め、専門知識を活かした社会貢献活動に取り組むことを期待されている。

所属：株式会社ジョーナンテクニカル
(E-mail: takayama-y@ab.auone-net.jp)

土木遺産シリーズ（42）

「国境の島・対馬」の古代山城・金田城 ～古代からの架け橋～

やしま たかこ
矢島 貴子
(学芸員・長崎)



1. はじめに

平成27年度に文化庁が創設した日本遺産の第一弾として、古代から続く大陸との交流と緊張の歴史が、日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」として認定されてから、今年で10周年になります。

去る9月3日に開催された長崎県支部第2回CPD研修会におきまして、「国境の島」のストーリーを講演させていただいたご縁から、執筆の機会をいただき、歴史文化に恵まれた貴重な地域資源の中から、土木遺産ともいふべき金田城について紹介いたします。

2. 白村江の戦い敗戦から金田城築城まで

660年、倭国（日本）と友好関係にあった百済（朝鮮半島南西部）は唐の攻撃を受けて滅亡。その後、百済の再興を図って蜂起し、日本も百済の援助を続けますが、663年、日本・百済連合軍は白村江（朝鮮半島南東部）で唐・新羅連合軍と戦い、大敗します。日本は唐・新羅連合軍の襲来に備えて、664年に対馬、壱岐、筑紫に防人（さきもり）、烽（とぶひ）を置き、筑紫には水城（みずき）を築きます。さらに、翌665年には大野城、基肆城などが築かれます。こうして、667年に築かれた金田城、屋嶋城、高安城など、九州から瀬戸内海に至る各地に、防衛のための拠点が築かれていきました。

対馬と朝鮮半島は約50キロしか離れておらず、国境の島・対馬に築かれた金田城はまさに国防の最前線でした。



3. 金田城

対馬の中央に広がるリアス式海岸に囲まれた浅茅湾に突き出した岩塊の山・城山（標高276メートル）に築かれているのが、特別史跡の金田城跡です。

金田城には、同地で産出する石英斑岩が、山腹を約3kmにわたり、ぐるりと一周するように積まれています。金田城は、海と山の地形を最大限活用して要塞とした、まさに「最強の城」です。

城の東側の「一ノ城戸」は、石塁が張り出しているのが特徴的です。「二ノ城戸」では、門礎石、敷石、城壁、階段などが発見されています。「三ノ城戸」では、約7mもの高い石塁が積まれています。



写真-3 三ノ城戸



写真-4 金田城山頂から

4. おわりに

日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」は、弥生時代から始まる大陸との交流を一つの大きなストーリーとして発信しています。金田城の他にも、対馬では島主・宗氏と朝鮮半島との交流をあらわす金石城や万松院、壱岐では原の辻遺跡や古墳群、五島列島では遣唐使の伝承が残る史跡などが日本遺産「国境の島」の構成文化財となっています。

古代からの遺跡や伝承とともに現存しているのは、「国境の島」が西の果てに位置していることや、地元の方が大切に守ってきたことが挙げられるのではないのでしょうか。

日本の対外交流史を詰め込んだタイムカプセルのような島に一度訪れてみてはいかがでしょうか。

出典「対馬市ホームページ（文化財課）」

所属：長崎県文化振興・世界遺産課
(E-mail: kokkyonoshima@pref.nagasaki.lg.jp)

私のチャレンジ

挑戦するのに遅すぎる ことはない

たむら かずや
田村 和也
(上下水道・福岡)



1. はじめに

原稿執筆依頼のテーマは「仕事でもプライベートでもチャレンジしている、したこと」についてですが、恥ずかしがらずに「これだ!」というものが思いつきませんでした。改めて自分自身を振り返っていると、「現在の自分においては日々の積み重ねそのものがチャレンジとなっている」と気づきました。そこで、私のキャリアについて述べながら、なぜ日々の積み重ねそのものが挑戦となっているかについて述べたいと思います。

2. 私の経歴

私は23歳のときに大学院を中退し、地方公共団体の土木職の職員として、社会人生活を始めました。最初は、駅前広場を整備するプロジェクトに特化した係に配属され、主に補償費算定、用地交渉の仕事を行い、2年ほど在籍していました。その後、係が都市計画道路の調査・設計・施工を行う部署へと合併され3年間在籍していました。その後、下水道の部署へ異動となり、下水道計画や管きよの調査・設計・施工を担当しました。また、農業土木も実施していたため、農業土木の仕事にも関わり、5年間経験を積みました。その後、道路の維持管理の係に異動となりました。そこで2年と3ヶ月を過ごし、公務員を辞めてコンサルタントへ転職します。現在は、下水道の計画をメインに業務に取り組んでいます。

3. 35歳、転職の決断

私の経歴を見ると、少し珍しいと思われた方が多いのではないのでしょうか。公務員から民間への転職です（調べてみると近年は一般職の方も含めて公務員から民間へ転職される方も増えているようですね）。特に土木職は民間から公務員への転職は比較的多かったと思います。私の前職においても、土木職の職員の半数は民間からの転職組でした。前例の少ない転職に挑戦する、これが私の現在進行形のチャレンジとなっています。

さて、なぜ転職を決断したのかについて述べたいと思います。係の中でも管理監督職を除けば最年長となり、責任が増えてくる中で、漠然と自分の成長に不安を感じるようになりました。私のような30

代後半～40代前半の働き盛りの世代は、キャリアや人生に対する深い悩みや葛藤に直面しやすく、ミッドキャリア・クライシスという言葉で定義されているようです。これまでの自分を1から振り返り、今後どういったキャリアを歩みたいのか、30台も折り返し地点にきて、初めて真剣に考えたのです。これまで生きてきた年数と同じ年数を働いて過ごしていく、と意識したときに、自分は何をしているのが楽しいのか、どういった形で社会に貢献していきたいのかと考えるようになりました。

公務員の仕事は調整が多く、事業を前に進める役割が大きいと感じています（あくまで私の主観です）。それはそれで魅力的ではあるのですが、設計はコンサルへ発注し、現場は施工業者に発注する中で、個人的には達成感が得られませんでした。

公務員の仕事をしている中で何に一番楽しさを感じていたかと言えば、基準書やガイドラインを確認しながら、設計書のチェックを行っているときでした。このため、コンサルに就職し、地方自治体の職員の皆様を支える側の仕事がしたいと思い、転職の決意を固めました。

4. 日々挑戦

さて、そういった経緯で転職してから現在まで、本当に日々挑戦です。全く経験が活かせない未経験の分野に飛び込んだわけではありませんが、それでもわからないことばかりです。技術士試験についても転職してから挑戦しました。土日もないくらい試験対策に取り組みました（家庭のことはほったらかし状態でした。妻の支えに感謝しています）。今年は総合技術管理部門へも挑戦しています。

業務についても、上司や若い社員からも教えを請いながら進めています。そういった挑戦する姿勢が認められたのが、現在は新たな施策であるウォーター PPP（上・工・下水道部門の新たな官民連携手法です）関連業務に支社の代表として携わることができています。

当然同じ年代のコンサル一筋の技術者とは雲泥の差がありますし、経験工学との言葉にもあるように、経験不足により引き出し不足を痛感することも多く、焦りもありますが、毎日が充実しています。

自分の特性を見極めたうえで、挑戦する決意を固めることができれば、タイトルにもしたように、挑戦するのに遅すぎることはないと感じています。

所属：株式会社三水コンサルタント
(E-mail : kz.tamura@3wcon.co.jp)

空港土木設計の 魅力と展望

にしかわ くにひろ
西川 晋弘
(建設・福岡)



私は学生時代から、航空灯火に照らされた夜の空港の風景が好きで、何度も見に行っていました。多くの人が飛行機に魅力を感じる中、私はそれを支える「空港」という存在に強く惹かれていました。もともと土木設計の仕事をしていたこともあり、自分の経験を活かして空港に関わる仕事ができないかと考えていたところ、「空港土木設計」という専門分野があることを知りました。それをきっかけにこの道に進み、気づけば空港土木設計者として25年の経験を積んできました。

一般的に空港設計と聞くと、ターミナルビルなどの建築物を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、私の専門は「空港土木」です。滑走路や駐機場の舗装設計、広大な敷地の造成、排水計画、構造物設計など、空港の基盤をつくる仕事を担っています。

空港土木設計の魅力は、そのスケールの大きさと

奥深さにあります。空港整備は、まるで一つの町をつくるような感覚です。滑走路や駐機場、排水施設、構造物を航空機荷重に耐えられるよう総合的に設計する必要があります。さらに、航空法による厳しい制限を遵守し、高い要求性能を実現するには、幅広い知識と深い思考力が求められます。また、空港は同じ場所で何度も再編や拡張が行われるため、過去の整備履歴や背景を読み解く力も重要です。航空機の大型化に伴って滑走路延伸や舗装拡幅と、時代の変化に応じた対応が求められる点も空港土木設計ならではの面白さです。

今後、国内で新しい空港が建設されることは少ないため、空港土木設計の仕事は、既存空港の機能強化や再編、そして維持管理が中心になっていきます。一方で、空港土木の技術が活躍できる新たな分野も広がりつつあります。例えば、空飛ぶクルマの離着陸場となる「パーティポート」の整備や、宇宙関連施設の建設など、次世代のインフラ整備においても、空港土木の知見が求められる場面が増えていくと期待されています。私自身も、そうした新しい挑戦の場に関われるよう、これからも努力を続けていきたいと思っています。

所属：株式会社イー・アール・イー
(E-mail : k.nishikawa@are-fukuoka.co.jp)

大阪・関西万博 における社会貢献

むらやま たかひろ
村山 貴裕
(建設、総合技術監理・北九州)



昨年閉幕した大阪・関西万博。万博開催中には多くの方々が公式アプリ（EXPO2025 Personal Agent等）を利用されました。この公式アプリの中の地図データは弊社（ゼンリン）にて提供させて頂きました。

今回、地図データの提供を通じた社会貢献とその裏側（課題と展望）についてお話をさせていただきます。さて、皆様は万博へ行かれたか。公式アプリは利用されましたか。公式アプリの使い勝手は如何でしたか。公式アプリの口コミには厳しいご意見もありましたが、地図やナビが便利だったとのコメントもあり、少しは社会貢献が出来たのではと今でも感情に浸っています。私は地図データの提供に際して社内のプロジェクトリーダーとして携わりました。一般的に地図データは現実の変化に応じて作成するものですが、今回は万博開催日に公式アプリを間に合わせる必要があったため、アプリの開発期間を考慮し万博開催前に未来を想像しながら地図データを

作成しました。

プロジェクトでは、地図データ作成に必要な様々な情報（工事図面等）を収集し、万博会場内の施設形状や歩行者向けナビゲーション用のデータ（ネットワーク網）、更には多くの施設を検索するためのデータを作成し、その作成過程の全体マネジメントを行いました。また、現実世界に無いものを地図データにするため、工事変更発生時の対応（地図データ修正）や工事図面の判読ミス等との課題とも向き合いながら進めました。これら課題を通じた展望としては、今後は異業種間におけるデジタルツインの活用に期待しています。デジタルツイン（サイバー空間とフィジカル空間の融合）はSociety5.0の実現に向けた手段として各企業が積極的に取り組みを進めています。しかしながら、特定の業界内で活用するものは多いものの、異業種間（例えば、建設会社と地図会社）でも容易に活用できるデジタルツインが進めば、万博会場内で発生した工事変更の情報の迅速な共有や、サイバー空間（3D空間）を共有することで専門的な工事図面の判読することも不要になると考えています。

最後に、大阪・関西万博の来場者は約2,500万人以上となりました。その数%の方々でも公式アプリを利用し笑顔と思い出に繋がったのであれば大変幸せに思います。

所属：株式会社ゼンリン
(E-mail : takahiro mu1192@zenrin.co.jp)

知識のアップデート

やまなか ゆうじろう
山中 雄二郎
(建設・佐賀)



我が家には3人の子供がいて、それぞれ高校生、中学生、小学生である。数年前からたまに宿題やテスト前の勉強の際に、考え方や解き方を教えているが、40代中頃である私が学生の頃に習った内容が変わっていると思うことが多々ある。

気になって少し調べてみたところ、以降に示すように変わっていたり、教えたりしていることが分かった。

【算数】

- ・繰り上がり、繰り下がり計算の解き方は、『さくらんぼ算』
- ・リットルの表記が『ℓ』⇒『L』

【社会】

- ・『聖徳太子』⇒『厩戸皇子』
- ・大化の改新『645年』⇒『646年』

- ・鎌倉幕府の成立年『1192年』⇒『1185年』
- ・『元寇』⇒『蒙古襲来』
- ・『土農工商』⇒『身分制度なし』
- ・『踏絵』⇒『絵踏』
- ・『リアス式海岸』⇒『リアス海岸』
- ・『四大工業地帯』⇒『三大工業地帯』

【英語】

- ・自己紹介『My name is ~』⇒『I am ~』

など、全ては調べきれないが、30年程度経過すると研究等の進歩や成果にて色々変わっていることが確認できた。また、歴史的事項の年号は語呂合わせで覚えていたが、それも変わっていたことに驚かされた。

私たちが接する科学技術も日々進歩しており、また、各種基準書についても改訂などがあることから、自分自身が持っている技術が陳腐化しないように今後も勉強し、知識や資質のアップデートを図っていきたくと改めて思った次第であった。

所属：株式会社 九州構造設計
(E-mail : y-yamanaka@kyukoh.co.jp)

ボウリング再開

きしぞの ひとし
岸園 人司
(建設・長崎)



私の趣味の一つとしてボウリングがあります。学生時代はボウリング全盛期で長崎市内にもたくさんのボウリング場がありました。仲間を募っては、安い早朝や授業を抜け出してはよく行ったものです。たくさんあったボウリング場も、今では長崎市内には一つとなってしまいました。

女子プロボウラーとして有名な人が、須田開代子さん、中山律子さん、石井利枝さんでした。昔は『女子プロ』と言えば、ボウリングを指していましたが、今ではゴルフ選手を指しているようです。

私が県庁へ入庁した頃は、ソフトボールが盛んな時代で、ボウリングをすることは無かったと記憶しています。ボウリングをするようになったのは、県を退職する5~6年前だったような気がしています。その頃に、私は建築課と住宅課に勤務し、年に1回程度三組織(建築課、住宅課、住宅供給公社)の対抗戦を行っていました。終了後の打上げでは、優勝

したチームの飲み代を負けたチームが負担するというもので、かなり熱が入っていたことが思い出されます。

県庁を退職して3回目の勤務先である(株)サンコー技研が測量設計コンサルタンツ協会に所属していることもあって、協会主催の会社対抗ボウリングが毎年開催されています。一組4名の合計点で各社が競い合いますから気持ちは高まりますが、長い年月のブランクもあり、思うような点数を取れません。しかし、どの会社も同じような状況だったのでしょう。幸いにも、ここ2、3年間は上位に入ることができました。また、社内でも時々ボウリング大会が行われていて、楽しい時間を過ごしています。

学生時代は数多く投げたおかげもあり、最高242点で、平均170点前後であったと記憶しています。最近では140点前後であり、たまには200点近くいくこともあります。それでも200点を越えたことがありません。何せスペアが上手く取れなかったショックが大きかったため、1年位前にボウリング場の会員となりました。今後はボウリングの腕を上げたいと考えています。

(E-mail : sg737455@da3.so-net.ne.jp)

物は大切に大事に しなさい

ぬまち えいじ
沼地 英二
(建設・熊本)



「物は大切に大事にしなさい。取って置きなさい。」小さいとき亡き母から教えられた言葉である。もう随分昔のことで、大正生まれの母は戦前、戦中、戦後の物が無い時代を経験したことから、いつも「捨てずに取って置きなさい（残して置きなさい）」と言っていた。現在その影響もあり、私物は相当増えてしまっている。

祖母、母、叔父が亡くなり、田舎の農家の家は7年前に空き家となってしまった。母と同様、昔の人ばかりで「もったいない」と言う考えのもとに、「いつかまた使うだろう」、「いつかまただれか使うだろう」、「だれかにゆずろう」との思いから、ありとあらゆる物が残してある。

服についていえば、私の子供のころは、服は年上の服を年下が譲り受けて着る。というのが当たり前で、二男である私は、いつも兄のお下がり服ばかり

着せられた（余談：新しい服をばかり着る兄が、羨ましかったことを覚えている）。服のこのような利用方法は、「循環型社会形成」の一つとして今でも活きている。それはリユース（Reuse）であり、着なくなった服などを兄弟、いどこ、知り合いに譲る、あるいはフリーマーケットに出品して販売して、別の人で使用することなど行われている。リサイクル（Recycle）も、一つの再利用法であろう。

しかしながら母達が残したほぼ全ての物は、令和の現在では使える物はなく、ほとんど全て捨てなければならない物ばかりである。空き家となって7年、私は今実家の「断捨離」に取りかかっている。衣類、古い写真（先祖と思われるが誰だか分からない）、食器、お膳セット、陶器類、布団、タンス、農機具などあらゆる物が残っている。いつ終わるか分からない果てしない作業を、土日を利用して少しずつ行っている。

最後になるが、母から教えられた「物は大切に大事にしなさい。取って置きなさい。」という教えを少し守ることにして、母達が残したものの、自分自身の私物、絶対に残して置きたいものを残し、出来る限り処分しようと頑張っている。

所属：旭測量設計株式会社
(E-mail: numachi@asahi-sk.com)

喜界ターン

たいら てつと
平 哲人
(農業、総合技術監理・鹿児島)



鹿児島県・奄美群島の北東に浮かぶ喜界島は、隆起サンゴ礁で形成されている島で、現在も年間平均約2mmのペースで隆起しています。地質学的な価値が評価され、世界地質遺産100選に認定されており、本年10月にも日本ジオパークの認定を受けました。小さな島全体が、地球の記憶を語る大きな教材で、地球の息づかいを実感できる貴重な場所として、国内外から研究者達や興味を持った多くの学生たちが視察研究に訪れます。

この島の玄関口が、島西部に位置する喜界空港です。滑走路の長さはわずか1,200メートル。1日に5便が定期的に鹿児島や奄美大島を結びます。駐機場内の小さなプロペラ機と見送りに来た方々との距離はフェンス越しに30mほど。この小さな空港には、島の人々と空を結ぶ温かな慣習があります。

離陸時、飛行機は滑走路へ進入する前に、ターミナル前の駐機場内をゆっくりと八の字を描くように旋回します。これは「喜界ターン」と呼ばれる喜界空港特有の慣習で、特に2月下旬から3月にかけて島を旅立つ学生や、転勤族の見送り、島内行事で多くの出身者が帰省した時に見られます。島で見送りは1大イベント、空港内は多くの見送り客で大混雑します。その中での「喜界ターン」は離陸時の決められた手順ではなく、パイロット達が自然発生的に受け継いできた“お別れに対する配慮”と言われています。乗客は、機内のどちら側に座っても見送りの親族や友達に手を振ることが出来ます。機内アナウンスも杓子定期的なものではなく、これからの期待の言葉や労いの暖かい言葉が並びます。この粋な計らいに皆々感動し、私もこれまで幾度となく元気づけられました。

無限大(∞)を思わせるこの軌跡は、IT化が進み合理性や生産性、そしてスピード感などが追い求められる現代社会の中で、人の温もりと絆の大切さを実感する瞬間です。

所属：株式会社コバルト技建
(E-mail: cob-taira@po2.synapse.ne.jp)

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

理事 にしい やすひろ
西井 康浩
(フェロー、建設、CPD認定、博士(工学)・北九州)



2025-27期の第3回理事会が、2025年9月10日に統括本部会議室において開催され、今回はオンライン(WEB)で参加しました。

主な審議事項と報告事項を紹介します。

1-1.常設委員・実行委員の選定【審議】

委員長および委員の委嘱について、事務局から示された原案通り（一部修正有）承認されました。

1-2.ワーキンググループの設置及びワーキンググループ(以下、WG)員の委嘱について【審議】

以下の6つ内容が報告され、いずれも原案通り承認されました。

- ① 広報委員会のPRTIMES配信WG：技術士の知名度向上に対し、メディア対応を担当するWGです。
- ② 社会委員会の工事監査支援WG：発注者との契約行為は日本技術士会となることが要件です。
- ③ 社会委員会の防災支援対外活動WG：継続的な

関与・支援が求められる行事・活動および委員の経験による専門性が期待される自治体や連携団体からの要請による活動を主にしています。

- ④ 国際委員会のIEA対応WG：エンジニアリング教育と実践における質保証、国際的同等性の確保、さらに流動性の向上に対応します。
- ⑤ 国際委員会のIMechE WG：英国機械技術者協会との友好協定を継続する委員会です。
- ⑥ 技術士資格活用委員会の関東地方整備局技術評価支援活動にかかるWG：各地方整備局等に設置されている国土交通省の新技術活用評価会議に対し、技術評価支援を継続的实施する中心機関となります。ここで制定された規則を参考に、九州本部にある九地整対応の同委員会規則の再整備が求められました。

1-3.会員の入会等について【報告】

会員数は横ばい状態で、正会員16,686名、準会員2,996名、賛助会員154名（2025年7月末）です。

1-4.第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）準備報告【報告】

参加者数が380名（8月25日時点）であることを西井より紹介しました。

1-5.技術士CPD 実績管理登録状況【報告】

依然登録者が少ないことの紹介がありました。

所属：西井技術士事務所
(E-mail : nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2025年度第2回 地域本部長会議報告

九州本部長 さたけ よしろう
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2025年10月6日(月)機械振興会館(東京)で開催した2025年度第2回地域本部長会議の概要を報告する。

【統括本部より説明】

1. IPD事業スモールスタートについて

2025年度内にID・パスワード取得のシステムを整備し、順次HP、メール等でIPD行事予定閲覧、参加申し込み、IPD実績登録できるように構築していく予定である。対象者を技術士一次試験合格者、JABEE修了者を対象とする予定である。

2. JABEE技術者教育プログラム審査員公募について

技術士会のHPに掲載しているが、地域本部内でも周知してほしい。

【地域本部よりの意見要望等】

1. 協賛団体の企業様のCPD行事参加について【近畿本部】

→手引きでは、非会員のウェブ配信は禁

止であるが、地域本部主催の講演会を協賛団体(非会員含む)へWEB配信してよいかについて、地域本部の協賛団体であれば所在が明らかで、顔が見える関係があるので、講師に説明したうえで講師の許諾が得られれば問題はない。

2. 行事運営上の後援等の名義使用に関する規則の運用について【中国本部】

→当該地域組織の代表幹事による手続きは、地域組織役員会等の内規で決定してほしい。総務委員会では、幹事による審議・メール審議等で柔軟に対応はしているが、基本的には総務委員会の開催スケジュールを確認してから上申してほしい。地域組織役員会等の運営も、メール審議等で柔軟に対応する方法もあるのでは。

3. 地域本部長会議の議案整理について【四国本部】

→今後、課題等が明確化・具体化するように、事務職員レベル、事務局長レベルでの会議を開催するように検討する。

【報告事項】

1. 中国本部は、建設部会並びに応用理学部会設立10周年記念講演会、60周年記念式典の結果の報告。

2. 九州本部は、全国大会の参加申し込み状況報告
所属：株式会社新世コンソーシアム
(E-mail : satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

中央・統括本部情勢

統括本部総務委員会

総務委員会報告

総務委員 もちだ たくじ
持田 拓児
(建設・福岡)



2025-27期の第2回総務委員会および同地域小委員会が2025年10月15日に開催されました。今回は西井理事と九州本部会議室からWEB形式で参加しました。

地域小委員会は、2地域から審議事項があり、6地域から報告事項がありました。審議事項について紹介します。

1-1.協賛、協力又は後援の名義使用依頼の審議【中部本部】

静岡県災害対策士業連絡会に対して後援名義依頼が審議され、異論は出ませんでした。

1-2.行事共催承認の審議【埼玉県支部】

埼玉大学研究機構社会変革研究センターとのCPD行事の共催に関する取り組みが審議され、異論は出ませんでした。

続いて、総務委員会は、6項目の審議事項、15項目の報告がありました。主なものを紹介します。

2-1.地方整備局技術評価支援活動に関する手引きの改定に関する審議事項

各地域本部が地域の実情に合わせた同規則と手引きを整備した後、総務委員会で審議・承認を得ることが確認され、手引きの改定について承認されました。

2-2.企業内・大学技術士会（緩やかな連携）の連絡先等の取り扱いに関する審議事項

緩やかな連携を進めることが確認され、異議なく承認されました。

2-3.WEB名簿上に開示される個人情報の取り扱いに関する審議事項

申込者の選択を尊重するシステムにするかなど、再度弁護士に確認することが決まりました。また、会員IDと入会年月日を選択できることなどが議論されました。

2-4.確認事項

他組織から業務委託を受けた場合の受託者は、日本技術士会会長になることが改めて確認されました。

所属：株式会社和晃地質コンサルタント
(E-mail：t-motida@wakou-tisitu.co.jp)

総務・企画委員会

隣県同士との連絡会議 (意見交換会)報告

総務・企画委員会委員 ふじしま よしひさ
藤島 義久
(建設、総合技術監理・福岡)



総務・企画委員会第2グループが所掌する事項の中に、統括本部・他地域本部等・県支部との連携に関する事項があります。その活動の一環として九州の各県支部との意見交換会を2022年から実施してきました。新型コロナへの対応ということもあり各県支部とはオンラインで行い、主にCPD実施に向けた現状や課題、さらには今後の連携策などを意見交換いたしました。2024年までに九州本部や各県支部が行ってきたテーマの分類・分析とともに、今後の取り組みについて活発な意見交換ができました。その中で、多くの意見として講師の選定やオンライン環境に関わる課題を確認できました。その対応策の試みに、地理的にも近い隣県同士でのCPD共同開催を提案し、2025年に数回に分けて連絡会議を実施することといたしました。現時点までの実施状況をご報告いたします。

(1) 2025年6月14日鹿児島県・宮崎県との連絡会議

冒頭、これまでの意見交換会の経緯と今後の進め方について説明するとともに、隣県同士でのCPD開催に向けて、オンライン機器の状況や人員体制、試行の具体的な日程調整などを意見交換いたしました。今回は、オンラインでの実績が豊富な鹿児島県支部から宮崎県支部へ講演会情報を発信するという形式となりました。参加費の考え方や新システムの活用、講師選定のあり方など、実施に向けた活発な意見が多く出されました。

(2) 2025年8月30日大分県・佐賀県との連絡会議

同様に当グループからこれまでの経緯や今回の目的などを説明した後に、両県間における開催日程の調整を行いました。この両県では、大分県支部から佐賀県支部に開催情報を発信することとなり、上記の例にあった参加者数や参加費の考え方、九州本部ホームページでの掲載のあり方などの意見交換を行いました。

なお、長崎県支部と熊本県支部との連絡会議について、日程調整を行っており、その開催後に一連の取り組みから今後への展望を検討したいと思います。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社
(E-mail pfujhima0720@yahoo.co.jp)

委員会・部会報告

地域産業支援委員会

活動報告

地域産業支援委員会委員 **よしだ つよし**
吉田 剛
(経営工学・北九州)



地域産業支援委員会は、会員技術士の保有技術をよく世間に知っていただき、その活用を促進するための広報活動に力を注いでいる。また、九州経済産業局や県の行政機関等と連携し、地域企業の振興や技術支援を推進することを目指している。

1. 本委員会活動で強化している技術士の窓の活動

前年度から技術相談増加を目的に、一般技術者向けに九州本部HPの技術紹介サイト「**技術士の窓**」<https://www.pekyushu.com/page6-a>を設け本会委員や他部会・委員会の協力者を募り技術紹介を進めている。10月現在、13件が掲載され、その成果の1つとして、某超硬メーカ(土砂掘削部品)より、寄稿者に相談があった。要請に応じて現地に出向き、今後の進め方を提案したところ、問題解決のため数回訪問することになった。寄稿は委員会メンバーを一巡し、九州本部の技術士に寄稿を呼びかけている。自身の専門技術を技術士会外部にも理解頂き、支援の機会にするためにも、ぜひ会員の皆様の積極的な寄稿をお願いしたい。

2. 九州本部・技術相談の実情・活性化に向けて

前述の「技術士の窓」によるPRに加え、個別相談への対応も進めている。その1つが廃プラスチックの処理・活用のテーマがある。プラごみの回収が進んでいるが海洋に流出したプラごみが離島に漂着して回収されている。このような漂着ゴミを処理する技術も開発されているが経済性や資源としての活用方法に多くの困難がある。最新技術の把握と処理技術の適用先について相談者と協力しながら進めている。

3. 外部機関との連携状況

定期的に一国会・二月会の会合に数名メンバーが参加し、情報収集と意見交換を行っている。委員会で報告されたものの一部を紹介する。

- (1) 一国会：九州経済産業局主催のオンラインのセミナー。今期は“九州先端科学技術研究所 設立30年のあゆみ”としてその変遷が紹介された。
- (2) 二月会：ニュービジネス協議会が開催するベンチャー育成を目的とするセミナーで毎回4件の新商品・サービスのプレゼンが行われ参加者との意見が交換される。

7月のセミナーでは(株)Raizeの通勤制度サービス[Fle-x]事業では柔軟な通勤制度の運用を支援するソフトの紹介他、3件の新事業紹介があった。

<https://qshu-nbc.or.jp/2025/06/06/160nigetsukai/> 参照
所属：吉田技術士事務所
(E-mail: tuyoshi-yoshida@nifty.com)

研修委員会

第51回技術士全国大会

研修委員会委員 **くぼかわ たかとし**
久保川 孝俊
(建設・福岡)



九州本部担当の第51回技術士全国大会が、2025年10月25日から10月26日にかけて、熊本市の熊本城ホールで開催され、その翌日から、日帰りおよび1泊2日のテクニカルツアーが実施された。

大会参加者総数は、627名であった。

10月25日は、14の部会・委員会による関連行事が、熊本城ホールやその他の会場で、開催された。

17時30分からのウエルカムパーティーでは、350名を超える参加者を迎え、やや手狭な会場となったが、名刺交換など和気藹々のパーティーであった。

10月26日は、9時から4つの分科会が開催され、第1分科会では「連携のチカラ」、第2分科会では「変わる力」、第3分科会では「技術のチカラ」、第4分科会では「はばたくチカラ」をメインテーマに、

会場との意見交換等がなされた。

13時30分からの記念式典は、来賓を含め500名を超える参加者で、文部科学省をはじめ各省庁、熊本大学長、熊本県知事の来賓祝辞を受け、来賓紹介ののち大会宣言で閉会した。

記念講演は、松田泰治氏(九州大学名誉教授、熊本大学名誉教授)から、「2016年熊本地震の教訓に学ぶ～更なる創造的復興に向けて～」をテーマに、発災直後の人命救助活動の迅速さや、道路啓開情報のインターネット公開など、これまでの全国の被災経験が生かされたことや、また地震観測網整備の充実など、新たに入手可能となった地震防災に関する情報の有効活用などを、説明された。



式典風景

17時30分からの交流パーティーでは、280名超の参加者で、鏡開きと乾杯で歓談が始まり、地元熊本の山鹿灯籠踊りやアンサンブル演奏があり、最後に、北陸本部の次期開催地紹介で、盛況のうちに閉幕した。

所属：株式会社テクノ大地
(E-mail: shiosai6510@gmail.com)

委員会・部会報告

倫理委員会

活動報告

倫理委員会委員 なかだ しげゆき
中田 成幸
(機械、総合技術監理・大分)



1. はじめに

倫理委員会は、今年度から新しく就任された佐藤委員長を中心に、活動管理、教育啓発、企画・配信、連携・交流の4つのタスクチームで活動しており、第2回定例会が9月20日に開催され、新倫理綱領についての意見交換等が行われた。また、10月25日には、第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)に合わせ、倫理情報連絡会が、熊本城ホールにて開催された。

2. 新倫理綱領「9.相互の尊重」について

城戸委員(熊本支部)から、技術士倫理綱領「9.相互の尊重」の改訂内容と考察、提言がなされた。

改訂により、表題が「相互の協力」から「相互の尊重」へ変更され、人権や多様性など個人の尊重がより明確化されている。また、対象範囲が従来の「技術士同士」という解釈から、「業務上の関係者」

へと拡大され、より広く相互の尊重が求められている。

綱領を実践する心構えとして以下が提言された。

- ・「尊重」「人権」「多様性」は繋がっており、多角的・国際的な視点を忘れず、自律的に行動する
- ・自律的に行動するために、①「尊重」「人権」「多様性」とは何かを問い続ける、②ハラスメントや差別の言動、関係者への権利侵害がないか問い質す講演後の討論として、以下の意見が出された。
- ・業務上の関係者としては、ステークホルダーで定義される範囲が妥当ではないか
- ・ハラスメントは個人の受止め方に依存し、個々にコミュニケーションを図る努力が必要である

3. 倫理情報連絡会について

統括本部及び各地域本部の倫理委員会から48名、オンラインで13名の参加があり、議論が進められた。九州本部倫理委員会からは、開催地区の委員会として、佐藤委員長の歓迎の挨拶のほか、歴代委員長による活動報告、河本副委員長による「技術者倫理の学びと教育の機会拡大」の講演を行った。当日は、統括本部倫理委員会の中野委員長からの活動方針等の報告もあり、これらの内容は月刊『技術士』2026年3月号に掲載予定であり、参照いただきたい。

所属：株式会社三井E&S
(E-mail: snakada@mes.co.jp)

防災委員会

防災委員会活動

防災委員会委員長 いしもと としあき
石本 俊亮
(建設、総合技術監理・福岡)



1. 上半期活動報告

- ① 防災委員会における委員研修
防災委員会において、防災委員による委員研修を実施しています。これまで、3回実施しています。
 - ・セメントの基本について(講師：稲垣委員)
 - ・海洋・港湾構造物の維持管理における課題と今後の在り方について(伊藤委員)
 - ・農業土木と防災(藤井委員)
- ② 県支部防災担当委員との意見交換
・土業連携について現状の課題を協議し、統括本部を主体とした連携活動推進が必要との意見をまとめた。
・統括本部の意見をもとに、弁護士会への働きかけを行う事とし、現在問い合わせを行っている。
- ③ ワークショップBOUSAIの企画・運営
10月25日に実施された統括本部防災支援委員会対

外活動WGの活動である、ワークショップBOUSAIの企画・運営を行いました。

全国から56名の参加があり、テーマ「正常性バイアス(まだ自分は大丈夫・・・)をぶっ壊せ！」にそって、早期避難につながるアイデアを協議しました。

④ 全国大会第1分科会(防災)企画・運営
連携のチカラ「経験を活かす・備える」をテーマに、156名の参加者を迎え、講師3名による講演会を実施しました。

⑤ 先進建設・防災・減災フェア企画・運営
11月19日-20日に熊本市で開催された上記フェアに参加しました。今年は、香月委員が講演されました。

⑥ 警固校区自治協防災授業の開催
11月29日に警固校区自治協で地震をテーマに講演を行いました。

⑦ 自然災害協議会研究発表会での活動報告
12月4日に開催された標記研究会で防災委員会の防災授業を中心とした活動報告を行いました。

2. 下半期活動予定

- ① 2026年3月14日第4回防災委員会
- ② 防災CPD企画～気候変化を気象予報士に聞く(仮)
- ③ 被災者支援研究会への参加
所属：アジア共同設計コンサルタント
(E-mail: toshiaki_ishimoto@yahoo.co.jp)

青年技術士交流委員会

熊本大会での 第2分科会報告

委員長 やまだ あきみち
山田 暁通
(情報工学・福岡)



2025年10月25日から28日にかけて、第51回技術士全国大会（熊本・九州沖縄）が熊本市内で開催されました。青年技術士交流委員会が担当した第2分科会では、「未来を支える技術者 ～ 変わる力を導くプロフェッショナル ～」というタイトルで、DX推進の視点を軸に置きつつ「(より良い未来の形への) 変革を導く力」をテーマとして、意見発表者を含む79名で闊達な議論が行えました。

1. 意見発表

意見発表では、一般社団法人日本ITストラテジスト協会（以下、JISTA）で繋がりのあった小坂佑士・税所知久両氏と、小坂氏と医療情報繋がりで紹介いただいた熊本での事例が豊富な藤井将志氏、他部門の技術士ながらもDX推進に従事している竹内将人氏の4名に意見発表者としてご登壇いただきました。

2. パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、技術者が持つべき「変革力」について、①「専門分野の基礎知識」②「変革のマインド」③「変革プロセス推進」の順に、意見発表者と会場で意見交換していきました。

①では、専門外分野の基礎的な知識・勉強の必要性が必要であることが確認されるとともに、信頼できる一次ソースとなる他の専門家とのゆるやかな繋がりの重要性が指摘されました。また、②③で変革人材のベースは、「自己成長マインド」であることや好奇心を糧に新たな分野に越境的に挑戦することを楽しむ技術者像が確認できました。



第2分科会の様子

所属：株式会社ロバストプラン
(E-mail: akimichi@robustplan.com)

北九州地区支部支援委員会

全国大会・意見票 から見えること

委員長 むた ひであき
牟田 英昭
(建設、総合技術監理・北九州)



第4分科会は、本部1名、北九州地区7名、大分1名、熊本1名のスタッフで運営。参加者約90名で、意見票42票を回収した。その一部を紹介する。

(育成手法について) ▼欧米では教育のコンピテンシーとしてマネジメントや実践が挙げられるが、日本の大学教育ではこれが不足していると思う。電気・機械・原子力 ▼当社では、新入社員の定着率が低く困っている。その中で「はばたき」と言われると、なお退職していく若者が増えるように思う。どのように関連付けたらよいのか？建設

(マインドについて) ▼マルチな収入源で生活の基礎を、というフレーズに感銘を受けた。現在、副業禁止の「閉じた職場」にいる。リスクはあるが、自らの幸福のためには独立するのが最も良いのだろう

か。(47歳) 応用理学・地質

(関係機関の役割について) ▼JABEE→ IPD→ CPDの流れはとても重要。JABEEの取得強化に向け、技術士会として何か良い方策はあるか。農業

(国際的同等性について) ▼海外の優れたエンジニアが日本の社会で幸福に活躍できるための、日本の風土を作っていくには、どうすればよいのか？金属・建設 ▼技術士は永久ライセンス。エビデンスとしてCPD認定があり、この仕組みの活用が課題。建設

(感想) ▼移動の大切さ、他の組織で習得したことを証明するなど、今まで考えたことのなかったことを学べた。建設 ▼企業として技術士の正当な評価をどうすべきか、技術士の役割を考えさせられた。建設 ▼大学・専門学校等での技術士の認知度・評価を高めていかないと、若い人材は育てていかない。同時に特に大企業での認知度・評価も高めないとしぼんでいく。大学と企業の技術者を接点とした連携が重要。金属 ▼うーん、難しいです。なかなか、このようにはできないですね。上下水道

所属：牟田技術士事務所
(E-mail: muta-san@jcom.home.ne.jp)

委員会・部会報告

試験業務支援委員会

技術士一次試験 無事終了

委員長 稲垣 浩通
(建設・福岡)



2025年11月23日、九州産業大学1号館に於いて、技術士一次試験が実施されました。

服部試験支援委員長が体調を壊されたため、私が委員長を急遽拝命した後の初めての試験でしたので緊張致しました。

試験用品(腕章・文具・教室プレート・試験場看板・梱包材等)の個数・表示等を確認する事前準備を、事務局の唐田氏等のお手伝いを頂き、完了致しました。

当日の日曜日は、公共交通機関の運行開始時間が遅い為午前5時に家を歩いて出発し、6時過ぎに技術士会九州本部に到着致しました。

事前に到着していた、石本委員、唐田事務局員と試験用品を手配していたジャンボタクシーに積み込み、来年鹿児島でも一次試験が実施されますので、

試験運営状況確認の為、来福された鹿児島県支部の井内支部長・高畦副支部長と待ち合わせ、6時半に九州本部を出発しました。7時過ぎに九産大に到着し、試験問題等を日通から受領しました。

試験業務支援委員の方々およびNEXAスタッフの手伝いを頂き、会場設営を実施後、マニュアルに従い、試験を実施しました。

受験票忘れが17名、当日の特別措置申請が2名、体調不良者別室試験が1名、受験票写真不鮮明再確認者1名等の事案が発生しましたが、カンニング等の不正受験は今回発生せず、皆様のご支援を頂き、どうにか無事に完了いたしました。

受験申込者数2,494名、受験者数1,872名、欠席者数622名、受験率75.1%となりました。全国平均が75.8%でしたので、ほぼ全国平均の受験状況でした。

今回、体調不良者別室試験が実施された事やNEXA手配の試験監督の欠席者が出て、技術士本部員より応援運営し、無事に終了することが出来ました。試験会場の増加等の為、試験業務支援委員会の増員を計画しています。お手伝い頂ける方はご連絡下さい。

所属：株式会社太平洋コンサルタント
(E-mail: hiromichi_inagaki@taiheiyo-c.co.jp)

建設部会

建設部会報告

建設部会長 おかだ ひろあき
岡田 裕彰
(建設、総合技術監理・福岡)



た。



その中で、特に東北本部などからCPD活動を統括本部と共同で実施した取り組みについての報告がなされました。これは地域本部が企画するCPDの講師の選任や広報、WEB配信等を統括本部と分担し相互に協力することで、より魅力的なCPDの企画、また運営の効率化、更に全国の会員へ広く情報提供しようとするものです。まだ試行段階で課題もありますが、私たち地方在住の会員のCPD受講機会の拡充につながることを期待される取り組みだと考えます。

その他、各地域本部から様々な意見・要望が出されましたが、紙面の都合ですべてを報告することはできません。詳細は技術士会HP等をご参照ください。

3. おわりに

今回の意見交換会で統括本部の活動方針や各地域本部の活動状況等の様々な貴重な情報が得られました。これら得られた情報は九州本部建設部会の今後の活動に活かしていきたいと考えています。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail:hiroaki.okada.km@nnr-g.com)

1. はじめに

第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)の関連行事として開催された建設部会意見交換会に出席しましたので、その概要を報告します。

2. 意見交換会の概要

この会議は、統括本部建設部会と全国に8つある地域本部の活動内容や課題の共有、また統括本部建設部会への要望・提言等について相互に意見交換することを目的として行われるもので、2025年10月25日(土)13:30から熊本城ホール(熊本市中央区)で開催されました。

会議の出席者は、統括本部から黒崎技術士会会長他14名、各地域本部の建設部会代表者18名の計32名でした。会議では、建設部会の運営方針・活動報告の後に九州本部をはじめ全国の地域本部の建設部会の代表者から活動報告がなされ、続いて建設部会と地域との連携をテーマとして意見交換を行いました。

みどり部会

令和7年度九州地区 森林技術者講習会(佐賀会場)開催

佐賀県支部長 **福岡 仁**
(建設・佐賀)



1. はじめに

令和7年11月7日に、佐賀県駅北館にて、令和7年度九州地区森林技術者講習会を開催しました。主催は、(公社)森林・自然環境技術教育研究センター(JAFEE)、九州本部みどり部会と会場の佐賀県支部が協力する講習会でした。九州各県から、林業・森林整備に携わる行政職員や建設コンサルタント、佐賀大学から140人以上の参加がありました。開会の挨拶は、みどり部会の山部鉄朗部会長が行いました。その後、森林に関する災害・保全・地質・技術開発といった4つのテーマについて、講演がありました。最後に、佐賀県支部の福岡が謝辞を述べて閉会しました。以下に、講習会の内容について報告します。

2. 講習会

【演題1】熊本県芦北地区の特定民有林直轄治山施設災害復旧等事業による災害復旧の歩み

【講師】九州森林管理局計画保全部
治山課長 中島 朝和 氏

令和2年7月に線状降水帯を伴う激しい雨が降り続き、山地災害の発生に加え、球磨川をはじめ多くの川が氾濫した。九州森林管理局では、発災直後から災害対策本部を設置し「山地災害対策緊急展開チーム」を編成し被災地に派遣した。被災地の復旧にあっては、「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」を設置し、国による直轄事業として実施した。令和5年9月に全ての復旧工事が完了した。その概要の説明でした。

【演題2】日本人が愛する「白砂青松」の現状／虹の松原をどう保全するか

【講師】国土防災技術㈱
取締役営業本部長 佐藤 亜貴夫氏

クロマツで構成された海岸林は「白砂青松」として親しまれ、日本の原風景の一つである。しかし、松くい虫被害の拡大を受け、この風景を守ることが難しくなっている。特別名勝に指定される「虹の松原」では、景観そのものが大切にされ、市民参加の「アダプト制度」等を通じ積極的な保全活動が行われている。松くい虫被害が進行する中で海岸林とし

ての虹の松原をどう保全すべきかについて述べられました。

【演題3】約9万年前の阿蘇4火砕流による植生破壊と地形改変

【講師】佐賀大学非常勤講師
下山地質代表 下山 正一 氏

約9万年前の阿蘇4火砕流堆積物は阿蘇カルデラを形成した超巨大噴火に由来し、九州から山口県まで分布している。風化した軽石質の火山灰には、炭化した樹木が含まれ、巨木も出土する。火砕流による植生破壊、堆積後の火山性土石流の発生などを示し、当時の生態系や地形に強いインパクトを与えている。阿蘇4火砕流堆積物の痕跡から地質学的にどのような事象が推定できるかの解説がありました。

【演題4】次世代スギ「サガンスギ」の研究開発成果とこれから

【講師】佐賀県農林水産部林業試験場
研究開発担当 特別研究員 福井 遼 氏

1965年に第1世代スギ精英樹を用いて人工交配をスタートし、優良な第2世代精英樹を選抜してクローン検定を行い、56年の歳月をかけて研究開発した4品種を「サガンスギ」として普及を行っている。サガンスギには、成長が早く、木材強度が高く、花粉量が少ないという特徴がある。サガンスギに関する研究開発の経緯や今後の展開など、サガンスギによる県内林業の振興に向けた取組についてご紹介がありました。

3. おわりに

佐賀県支部を中心に18名からなる実行委員会を立ち上げ、事務局及び企画渉外と会場準備の2つワーキングにより、講習会の準備を行いました。合計7回の実行委員会を行い、おかげさまで盛会に終わりました。ご参加の皆さまをはじめ、九州本部事務局、関係者の皆さまに、あらためて感謝申し上げます。



(E-mail : fukuoka@sinwa-consultant.jp)

委員会・部会報告

環境部会

環境部会主催の 講演会開催の報告

環境部会副部長 くどう しゅういち
工藤 修一
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



講演会は、今年度から初めて会場参加と有料のオンライン参加を併用して開催しました。



1. はじめに

環境部会は、九州地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の3部門からなる部会です。2025年9月25日に実施した環境部会主催の講演会について報告いたします。

2. 講演会の実施内容

講演会は、演題①「流域治水を支えるボトムアップ型IoT技術や曝露量低減に向けた研究」について、九州大学工学研究院附属アジア防災研究センター准教授 佐藤辰郎氏を講師にお招きしました。

演題②「九州の地下エネルギー資源に関する最近の話題」について、九州大学工学研究院 地球資源システム工学部門エネルギー資源工学講座 教授 山田泰広氏を講師にお招きしました。

3. 講演会の結果

講演会の参加者は、会場参加が25名とオンライン参加が5名でした。

講演会では、流域治水の最新技術や地下エネルギー資源の活用について、会場参加者から多数の意見や質問があり、講師と活発な議論がなされました。

4. 見学会の開催

環境部会では、12月4日(木)に見学会を開催します。見学先とテーマは、①西部ガスひびきLNG基地(テーマ:メタネーション実証事業)と、②海の中道奈多海水淡水化センター(テーマ:未利用資源で浸透圧発電)です。多数のご参加をお願いいたします。

所属:メック株式会社
(E-mail: s.kudou@mec-corp.co.jp)

ものづくり部会

活動報告

ものづくり部会幹事 たぐち ひろゆき
田口 宏之
(機械・福岡)



2025年10月25日(土)、第51回技術士全国大会が熊本で開催されたことに合わせ、ものづくり部会は機械部会と共同で「かたろう未来の技術 集え若者」をテーマに掲げた併設機械部会を熊本大学黒髪南地区にて開催いたしました。本会は産学連携の元、技術者育成および工学の歴史遺産見学、次世代技術者と現役技術士の交流を目的とし、技術士だけではなく熊本大学、熊本高等専門学校の教職員および学生を含む総勢53名(技術士34名、教職員3名、学生16名)が参加しました。午前の部は、グローバルものづくり教育センター、工学部研究資料館、重要文化財である五高記念館を見学し、実践的技術者教育の現場や近代工学教育の歩みを学びました。

午後の部は、最先端技術に関する講演会とグループ討議を行いました。まず、熊本大学産業ナノマテ

リアル研究所の浪平隆男准教授より「知られざるパルスパワーの世界・その応用と社会実装」と題し、パルスパワー技術の基礎からコンクリート骨材処理やアニサキス殺虫法などの産業化事例についてご紹介いただきました。次に、熊本高等専門学校機械知能システム工学科の湯治準一郎教授より「ロボットは人類に幸福をもたらすのかー農業や水産業の課題を解決する最先端ロボティクスを議論する」と題し、地域課題解決を目指した栗拾いロボットや水田雑草ロボットの開発を通じてロボティクスの社会実装についてご講演いただきました。続くグループ討議では、技術士がファシリテーターを務め、講演で得た知見や課題について技術士と学生が議論を行いました。学生からは活発な発言があり、貴重な討議の場となりました。ご協力頂きました先生方、学生の皆様、機械部会の皆様にこの場を借りてお礼を申し上げます。

ものづくり部会では、今回のような見学会やCPDなど色々なことを企画していきたいと考えております。当部会にご興味を持たれた方、一緒に活動してみたいと思われた方はぜひご一報ください。

所属:田口技術士事務所 代表
(E-mail: taguchi@taguchi-peoffice.com)

合同役員会報告

2026年度 九州本部事業計画

2026年度九州本部の事業計画は、以下の項目を重点的に実施します。

- 1 広報季刊誌「技術士だより・九州」の掲載内容の充実及び九州本部のHPの構成や内容を検討しHPを改善・充実させます。HPの更新、修正について、2024年度から業者への委託から、九州本部の担当技術士メンバーが直営で行う方式に変えたので、確実に履行するようにします。
- 2 研修委員会で企画するCPDについて、最近の社会情勢の動向を踏まえ、適切なテーマと講師を選定し実施することにより、参加者の増加と満足度の向上を図ります。
- 3 定期CPD開催にあたり、統括本部の推進する中央・地方会員のCPD格差対策として会員のWEBによるCPD受講機会の拡大に資するとともにCPD講座の収録にも取り組みます。
- 4 技術士の作成した論文を多くの会員から募集し発表する論文発表大会を継続・発展させ、会員の技術士活動を対外的に拡大するよう推進します。
- 5 地域産業支援委員会の活動は、従来会員の技術研鑽に限っていたものを、「九州の地方創生」に向けた視点から地域産業の創造支援などに寄与していくため、技術開発等希望する企業に経済産業省等からの補助事業の導入を支援するとともに、その企業の課題解決に向けた相談・支援業務を行います。
- 6 防災・減災に関して地域住民の自主防災活動団体や学校等からの要請に応じて、出前講座で講師として出向き支援活動を実施します。また、この活動を持続強化するため小学校の教師を防災担当指導者として育成・防災カリキュラム作成等の支援活動に取り組みます。
- 7 九州の地震及び豪雨災害等の復旧・復興支援活動を円滑に実施するため、他の士業団体との連携体制を構築すると共に、支援に参加する会員アドバイザーを広く募集します。
- 8 日本技術士会の知名度向上、支援活動の向上のために、防災・減災技術フェアなどに出展し、活動紹介などの広報を行います。
- 9 青年技術士交流委員会や県支部による大学・高専への技術士制度の普及啓発活動や修習技術者支援活動を継続・拡大します。
- 10 子供たちの理科離れを防ぐため、小・中学生向けの理科教室を充実して開催します。
- 11 2018年度から始めた若手女性技術者の相談や悩みに応える場としての「技術者サロン九州」を継続・発展していきます。
- 12 合格祝賀会を継続・発展させ、合格者の会員参加拡大を呼び掛けます。
- 13 技術士試験実施に当たり会場選定や試験実施業務について統括本部技術士試験センターに連携・協力します。
- 14 技術士倫理に関して統括本部倫理委員会及び他の地域本部倫理担当委員会と連携して技術士及び技術者の倫理の啓発を推進します。
- 15 総務・企画委員会を活用して、本部主催行事の企画、事業計画作成、財務管理、役員会運営等の事項の強化に努めます。
- 16 新たな技術士CPD制度の周知活動やIPD事業スモールスタートについて、統括本部の技術士CPDセンター等に連携・協力します。
- 17 沖縄県の技術士会員が、2023年度から九州本部管轄になったことに伴い、沖縄県の会員技術士の活動を支援できるよう、取り組みの充実を図ります。
- 18 事務局業務としての会員への情報配信、会議開催等の事務を円滑に実施し、事務局機器の充実・管理及びCPD開催等に関する収入・支出の会計事務を適正に実施します。
- 19 事務局の会議室及び同ビル内にある会議室の利活用に努めます。
- 20 2026年秋開催の第46回産学官と技術士の合同セミナーの成功を目指して、九州本部が一致連携して取り組みます。
- 21 基本として技術士が地域に貢献できることを目指して、種々の活動に取り組みます。

2025～2026年度役員名簿

変更 2025年11月21日第2回合同役員会
幹事：2025年4月22日選出、役員7月12日選任

九州本部役員(案) 定数(32)

| | 役員名 | 氏名 | 役職 | 担当職務の内容、統括本部委員併任 |
|----|----------|-------|--------------|------------------------------------|
| 1 | 代表幹事 | 佐竹芳郎 | 本部長 | |
| 2 | 副代表幹事 | 真鍋和義 | 副本部長 | |
| 3 | 副代表幹事 | 末松正典 | 副本部長 | |
| 4 | 副代表幹事 | 久保川孝俊 | 副本部長 | 建設系CPD申請窓口 |
| 5 | 副代表幹事 | 清崎淳子 | 副代表幹事 | 全国大会実行委員長 (個)技術士資格活用委員会委員 |
| 6 | 副代表幹事 | 田沼和夫 | 副本部長 | 地域本部CPD審査長 |
| 7 | 幹事 | 西井康浩 | | 九州本部選出理事 |
| 8 | 幹事 | 持田拓児 | | (常)統括本部総務委員会委員 |
| 9 | 幹事 | 寺地 守 | | 事務局長 |
| 10 | 幹事 | 藤島義久 | 事務局次長 | (常)統括本部企画委員会委員 |
| | 兼(副代表幹事) | 末松正典 | 総務・企画委員長 | |
| 11 | 幹事 | 倉成真一 | 広報委員長 | (常)統括本部広報委員会委員 HP承認者 |
| 12 | 幹事 | 棚町修一 | 広報副委員長 | |
| 13 | 幹事 | 松田 敦 | 広報副委員長 | |
| 14 | 幹事 | 松永榮八郎 | 地域産業支援委員長 | |
| 15 | 幹事 | 福田達彦 | 地域産業支援副委員長 | |
| 16 | 幹事 | 寺師政廣 | 研修委員長 | |
| 17 | 幹事 | 吉住高久 | 研修副委員長 | 事業開催運営担当 |
| 18 | 幹事 | 中園健一 | 研修副委員長 | 論文発表担当 |
| 19 | 幹事 | 佐藤光雄 | 倫理委員長 | (常)統括本部倫理委員会委員 |
| 20 | 幹事 | 石本俊亮 | 防災委員長 | (常)統括本部社会委員会委員 (実)統括本部防災支援委員会委員 |
| 21 | 幹事 | 緒方正隆 | 防災副委員長 | |
| 22 | 幹事 | 山田暁通 | 青年技術士交流委員長 | (実)統括本部青年技術士支援委員会委員 |
| 23 | 幹事 | 大森和範 | 青年技術士交流副委員長 | 大学・高専説明会担当 |
| 24 | 幹事 | 牟田英昭 | 北九州地区支部支援委員長 | |
| | | 稲垣浩通 | 試験業務支援委員長 | 稲垣浩通 試験業務支援委員長 |
| 25 | 幹事 | 服部弘政 | 試験業務支援委員(休職) | |
| 26 | 幹事 | 山部鉄朗 | みどり部会長 | |
| 27 | 幹事 | 岡田裕彰 | 建設部会長 | |
| 28 | 幹事 | 松田研志 | 環境部会長 | |
| 29 | 幹事 | 西尾行生 | ものづくり部会長 | (常)統括本部研修委員会委員 |
| 30 | 幹事 | 大村 学 | 沖縄連絡担当 | |
| 31 | 会計幹事 | 原田正則 | 会計幹事 | 監査 |
| 32 | 会計幹事 | 松尾孝則 | 会計幹事 | 監査 |

以上 32名

※役職に九州本部を冠する

| | | | | |
|---|------|------|--|-----------|
| 1 | 特別顧問 | 甲斐忠義 | | |
| 2 | 顧問 | 日野伸一 | | 久留米工業大学学長 |
| 3 | 参与 | 田中孝一 | | |
| 4 | 参与 | 江口友弘 | | |
| 5 | 参与 | 中村 勲 | | |

| | | | | |
|---|--------|------|--|--|
| 1 | 選挙管理委員 | 友納 敏 | | |
|---|--------|------|--|--|

所在地：〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目19番5号 博多石川ビル6階D2号室

連絡先：公益社団法人日本技術士会九州本部

TEL：092-432-4441 (常)：常設委員会

FAX：092-432-4443 (実)：実行委員会

E-mail：pekyushu@nifty.com (個)：個別規定による委員

(常)：常設委員会

(実)：実行委員会

(個)：個別規定による委員

支部だより

北九州

10月度月例研修会 (施設見学会)

ほりうち たかし
堀内 啓史
(機械・北九州)



令和7年10月10日(金)、TOTOアクアテクノ小倉本社工場にて、施設見学会、CPD研鑽会が行われ、21名が参加しました。

1) 施設見学会

最初に展示室にて、最新の水栓金具、シャワーヘッドなどの製品を見た後、実際の水栓金具の製造工程を見学しました。鋳造、研磨、めっき、組立、PVDなどの主要工程と、製造技術や環境への取り組みが製品開発につながっていることを紹介されました。過去何年か前に、こちらの工場見学があったようで、当時参加されたメンバーは、工場が一新され、自動化が進んでいたことに、凄く驚かされていました。当工場に、私も勤務しておりますが、全く別の商品開発に取り組んでいるため、今回の見学コースは初めてで、興味深く拝見することが出来ました。

2) CPD研鑽会

施設見学の後2テーマ技術講演が行われました。1テーマ目は、“私たちの生活や産業に欠かせない表面処理技術”と題して、TOTO河本様よりご講演頂きました。身近に様々な目的で表面処理が施されている物が実に多いことを改めて実感。また、安全面、環境への配慮が重要であることが判りました。2テーマ目は、“プロセスコンピュータシステム～効率生産と生産統制のための生産プロセス制御(管理)”と題して、野村技術士事務所 野村様よりご講演頂きました。インダストリー4.0と云えど、生産工程等の仕組み作りにおいて、情報技術はツールに過ぎずシステムにどう連携するかが大事であることを再認識しました。



所属：TOTO株式会社
(E-mail : takashi.horiuchi@jp.toto.com)

宮崎

宮崎支部の活動

かんだ としひろ
神田 稔弘
(建設、総合技術監理・宮崎)



■現地見学会

宮崎県支部では、10月22日に現地見学会を実施しました。見学場所は、宮崎県企業局が管理している綾第2発電所で、このダムは昭和31年から実施された綾川総合開発事業の一環として建設されました。すでに60年以上の年月を経過しており、主要機器に老朽化が見られることから、令和元年度から令和9年度にかけて発電所の機器を更新することとしています。綾川総合開発事業は、大淀川支川、本庄川・綾北川の綾南ダム、綾北ダム、田代八重ダムにより洪水量の軽減を図り、本庄川・綾北川沿岸や、大淀川下流の宮崎市付近の洪水による災害を防除すると共に、これら3ダムと古賀根橋ダムの貯水池を利用した発電事業と、綾町、国富町、西都市、宮崎市一帯にわたる丘陵地のかんがい事業及び宮崎市の上水道用水の確保を目的としています。当日は、総勢12名の参加者が宮崎駅に集合し、中型バスで発

電所に向かいました。

現場では、工事を担当している清水建設の担当者から説明を受け、発電所本体の工事の概要を聞くとともに、BIM/CIMを導入したことによるメリットについても説明をいただきました。その後、モノレールに乗り導水路からタービンに水を落とす鉄管弁まで上がり、発電所内部を見学させていただきました。

■土木の日イベント

毎年11月18日の「土木の日」に併せて、イオンモール宮崎で土木に関するイベントを宮崎大学や国土交通省、宮崎県等と共催という形で開催しています。昨年は、11月8・9日の週末に開催しました。会場には、土木の活動に関するパネルを設置し、土石流模型や実際使われている実物大の雨水貯水タンクの展示を行い、多くの市民が訪れ、関心を持ってもらえた様です。来訪者440人にアンケートに答えてもらいました結果でも、このような広報活動は必要という意見をいただき、今年度の開催にも励みになる2日間となりました。



所属：株式会社エム・ケイ・スリー
(E-mail : pe.kanda1958@gmail.com)

支部だより

熊本

土木科への 出前講座から

いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



1. はじめに

本誌第142号（令和7年1月15日発行）「地域の話題」に玉名工業高等学校の出前講座の原稿を執筆した。本年も令和7年9月11日（木）に第2回が開催された。内容的には重複するものがあると思うが、以下に紹介させていただきたい。

2. 出前講座

玉名工業高等学校は、2024年度の文部科学省のマイスターハイスクール普及促進事業（先進的取組型）に採択されている。行政、企業、学校が地域と連携し地域を担う産業人育成と持続可能なカリキュラムを開発する仕組みであり、令和6年度からハイスクール事業の一環として、インフラ調査の出前講座をコンクリート診断士会に依頼している。後援は玉名市土木課である。

対象は、土木科2年生の20名（男子15名、女子5名）である。

座学内容は、県診断士会理事長による①橋梁点検について（写真-1）、県診断士会相談役の②電磁誘導法による配筋状態及びかぶり測定、③電磁波レーダによる配筋状態及びかぶり測定に関して説明を合わせて約60分行き、バスで現地に移動した。

また、現地では高所作業車で調査や反発硬度法の調査も行った。

以下に座学及び実施状況写真を紹介する。



写真-1 橋梁点検について（田尻理事長）

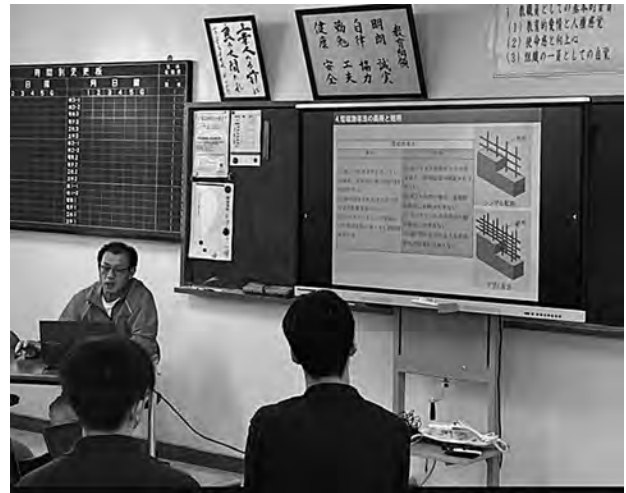


写真-2 電磁誘導法・電磁波レーダ法説明

現場（松木5号橋）に移動して、高所作業車からのひび割れ測定や点検ハンマーによる打音調査（写真-3）、更には電磁誘導法（写真-4）、電磁波レーダ法（写真-5）の実務を实际行った。



写真-3 高所作業車

写真-4 電磁誘導法



写真-5 電磁波レーダ操作状況（生徒による）

3. おわりに

土木科の石井真一教諭は「授業では体験できない貴重な体験をいただき、職業感に関して生徒が進路選択への視野が広がったと思う」との感想が聞けた。本出前講座は県コンクリート診断士会の継続支援事業として今後も貢献する予定である。関係者の皆様に感謝申し上げたい。

所属：株式会社ウラタ・シビル・コンサルタント
(E-mail: h-isami@urata-co.jp)

近況活動報告

鹿児島県支部長 いうち よしひと
井内 祥人
(フェロー・森林・博士(農学)・鹿児島)



1. 鹿児島大学農学部技術士制度説明会

鹿児島大学工学部は、JABEEの認定を受けている。しかし、他学部では認定を受けていない。そのため、学生は技術士第一次試験から受験せざるを得ない。当支部は、大学・高専在学中に一次試験を合格してもらうことを活動方針の一つとしている。そこで、6年前から農学部学生を対象に、技術士制度及び一次試験概要説明会を実施している。本年も6月17日に大学講義室で実施した。昨年は33名の参加者だったが、今年は参加者が増え52名となった。この時に一次試験受験申込み書も配布しているのだが、今年は申込み書が不足し、一部の学生は統括本部HPからダウンロードしてもらうようお願いした。また、一次試験合格者も10名を超えるようになった。支部活動の効果が学生達にも、ようやく浸透しはじめたと実感したところである。

2. 第48回CPD講演会中止

2025年8月9日に予定していたCPD講演会を、当日、朝、急遽中止にした。理由は8月7日から降り始めた豪雨により、鹿児島湾奥の始良市、霧島市を中心に甚大な被害がでたためである。二日間の総雨量は500mm近くなり、8月1か月雨量の2倍以上となった。この結果、九州自動車道の通行止め、国道10号線の始良市内の橋梁被害で通行止め、このほか多くの災害が発生した。また、当日の講師は宮崎市及び霧島市に在住しており、講演会会場（鹿児島市）までの来場が不可能と判断したためである。早速、講演会参加予定者に中止案内のメールを送信した。私と副支部長は、会場で待機していたが、中止を知らずに来場した会員が4名いた。この結果を踏まえ、先日の研修委員会では、危機管理対策としての中止案内の方法等について議論したところである。イベント開催者のリスクマネジメントを痛感させられた出来事であった。なお、被災した橋梁は応急復旧がおわり11月9日に3か月ぶりに国道10号線が開通した。

所属：中央テクノ株式会社
(E-mail : iuchi@chuuou.jp)



九州本部青年技術士交流委員会 メンバー募集案内

九州本部青年技術士交流委員会は、概ね45歳以下（やる気があれば何歳でもOK！）のメンバーで構成され、家庭・職場に次ぐ第3の交流の場です。様々な部門の技術士の相互交流を通して自己啓発・社会貢献・人脈形成など様々な経験・成長を実感できるはず！

合い言葉は「できる人が、できる時に、できることを」とし、楽しみながら様々な活動をしています。あなたも一緒に活動してみませんか？

活動の三本柱

研鑽活動

- CPD
- 見学会
- 夏休み自由研究
- 公開講演会
- 研鑽会 など

普及活動

- 技術士制度説明講義
- JABEE認定課程支援活動(大学・高専での講義)
- 女性技術者・女子学生懇談会 など

交流活動

- 合格祝賀会
- 納涼会
- 忘年会
- ゴルフ大会 など

応募の詳細はこちらから！



QRコード

問い合わせ先:kyusyu.seinen.pe@gmail.com 担当:大川

応募フォームURL:https://bit.ly/3fxXsnv

CPD報告

長 崎

長崎県支部 第3回CPD研修会報告

たしま ひろふみ
田嶋 博文
(農業・長崎)



長崎県支部の令和7年度第3回CPD研修会が11月5日(水)に開催(3講演)されたので、概略報告します(参加者数45名、うちweb参加14名)。

なお、当支部でのハイブリッド方式開催は2回目、不慣れな点もありましたが、今後の展開に向けて確かな手応えも感じることができました。

演題1「加齢に伴う心身の脆弱状態『フレイル』とその予防方法について」

講師：高島 英昭氏 長崎大学病院リハビリテーション科(教授)

フレイルは、健康と要介護の中間に位置する可逆的な状態を言います。講演では、栄養・運動・社会参加によって予防・改善が可能な点、および地域包括ケアの視点から、生活習慣の工夫や多職種連携の重要性が紹介されました。参加者は、健康寿命の延伸に向けた実践的な知見を得るとともに、地域医療

との連携のあり方について理解を深める機会となりました。

演題2「諫早市におけるラウンドアバウトの取組」 講師：金松 正一郎氏 諫早市役所建設部(建設・総監)

信号のない交差点における交通安全対策として、諫早市で実施されたラウンドアバウト導入の取り組みが紹介されました。講演では、全国の導入事例や設計上の留意点、導入による事故減少やCO₂排出量抑制などの効果が示され、災害時の機能維持や景観形成への寄与も強調されました。また、効果が期待できる箇所は今回の経験・知見を活かして今後も導入が検討されるとのことでした。

演題3「スパ型浮体式風況観測装置(MIA)の事業化」 講師：川口 季昭氏 協和機電工業(株)(電気電子)

MIAは、日本初の国産商用機として、洋上風力発電の風況観測に特化した浮体式ライダーであり、安定した3点係留方式や独立電源システムを備え、長期観測を可能にしています。講演では、開発の経緯や他機種との比較、海象データ収集機能、遠隔監視システムの構築などが紹介されました。現在は新会社を設立し、国のセントラル方式事業にも参画されており、洋上風力の普及に向けた技術的・制度的貢献が期待されます。

所属：株式会社ペック
(E-mail: tashima@peck.co.jp)

大 分

大分県支部 CPD報告

うえき かずひろ
研修委員長 植木 和宏
(建設、総合技術監理・大分)



令和7年度の第2回CPD研修会(通算59回)は、予定通り9月6日(土)に、大分県教育会館大ホールとWeb講習会を併用し、大分県支部主催、大分県測量設計コンサルタンツ協会協力、大分県土木施工管理技士会後援で開催されました。

講演1:「カーボンニュートラルに対する取り組みについて」(山本大介先生)では、低炭素化社会の実現が叫ばれている中、セメント製造時に発生するCO₂削減の為、高炉スラグの比率を上げ、かつ構造物としての強度要求を維持することを目標に、セメントの配合等を種々検討して性能要求に応える、そして、再生コンクリートで性能要求に応える研究を紹介され、当課題への意気込みが感じられる講演でした。

講演2:「港湾の脱炭素化(カーボンニュートラルポート)に向けた取組」(山口甲一郎先生)では、工

ネルギー消費や物流拠点としての役割から、温室効果ガス排出源となっている港湾地域において、いかに脱炭素化を進めるかという県の戦略について、講演いただきました。

講演3:「ランドスケープの視点を生かした地域復興」(福田昌代先生)では、東日本大震災被災地域の復興事業後の土地利用の実態と、花と緑を通じた住民主体の土地利用の実践の経緯と現状、そして復興や今後の減災の取り組みにランドスケープの視点を取り入れることの意義を講演いただきました。

講演4:「鑄鉄【球状黒鉛鑄鉄】の活用領域について」(福田亘先生)では、ほぼ最終製品に近い形まで一体で作り上げるという点において鋼とは大きく異なる特徴を持つ、鑄物の優れた点から始まり、古くから活用されている鑄鉄の材料工学的な特徴の説明から、それを製作するプロセス、橋梁等への活用事例について、講演いただきました。

講演5:「静かに進行する管路劣化～見えない危機からインフラを守るパルテム工法～」(中川一先生)では、老朽化した上下水道管路に起因した、近年頻発する水道管の破損や埼玉県八潮市の道路陥没事故等の深刻な状況を踏まえ、解決策としての表記工法等管路更生工法について、講演いただきました。

次回は11月15日(土)開催予定です。

所属：株式会社レックス九州
(E-mail: k.ueki@re-cs.co.jp)

第48回 CPD講演会報告

副支部長 ^{たかあぜ} **高畦** ^{ひろし} **博**
(建設、総合技術監理・鹿児島)



1. はじめに

第48回は今夏8月9日に実施予定であったが、霧島市周辺の豪雨による交通途絶で講師の来場が困難と判断されたため中止となった。今回改めて第48回として11月1日鹿児島市勤労者交流センターで開催した。参加者32名(会員28名うちWEB3名)。遠隔地からのWEB参加も定着してきたように感じている。

2 『高速道路における溪流災害への対応について』 川原田 圭介氏(西日本高速道路(株)九州支社鹿児島高速道路事務所副所長, 技術士(建設), 博士(芸術工学))

西日本高速道路(NEXCO西日本)で発生した道路災害は、公共に資する土木施設であるが企業が管理する施設災害であるため、公共土木施設災害復旧事業とは異なった対応で行われる。本講演では、九州管内で発生した令和2年、令和5年、令和7年などで発生した豪雨災害での対応について説明いただいた。トンネル近傍の土石流による坑口埋塞による応

急復旧対応や自社敷地内での本復旧の検討など限られた条件で実施された対応は参考になるものであった。中でも早期復旧に向けて70mにも及ぶ長大斜面の雨水浸透対策として、自らその斜面をブルーシートで被って対応している懸命さに感銘を受けた次第である。

3 『潮流が歴史を動かした！最新の数値モデルで挑む真相解明～なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか～』西井 康浩氏(西井技術士事務所代表, 技術士(建設/CPD認定/フェロー), 博士(工学))

早い潮流で有名な関門海峡周辺で繰り広げられた、源平による「壇ノ浦の合戦」、宮本武蔵と佐々木小次郎の「巖流島での決闘」、長州藩と4か国が対戦した「下関戦争」の3つの歴史的な出来事について、歴史書の記述を海岸工学の知見で検証しようとした内容であった。シミュレーションによって当時の潮流が視覚的に再現され、この動きと合わせた史実の説明と近年の歴史解釈が加わった話によって、目の前で出来事が展開されているような錯覚に襲われた。再現された潮流と歴史ドラマの壮大な展開に、90分という枠では短く、まとめて苦労されたのではと思っている。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail : hiroshi.takaaze@nifty.ne.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和7年8月〉

| (所在地)(区分) | (氏名) | (部門) | (勤務先) |
|-----------|-------|------|---------------------------------|
| 大分 正会員 | 大原 良紀 | 電気電子 | 株式会社大和電業社工務部 |
| 宮崎 正会員 | 清藤 浩昭 | 建設 | 株式会社奥村設計本社技術管理部 |
| 福岡 正会員 | 佐田富敏行 | 建設 | JR九州コンサルタンツ株式会社技術管理部 |
| 福岡 正会員 | 竹嶋 寛 | 建設 | 日本工営都市空間株式会社九州支店社会基盤部 |
| 福岡 正会員 | 長岐瑠里子 | 建設 | 日本工営株式会社福岡支店流域水管理部 |
| 福岡 正会員 | 成島 正倫 | 建設 | 日本工営株式会社福岡支店 |
| 福岡 正会員 | 牧野 公亮 | 建設 | 日本工営株式会社防衛基盤整備事業部沖縄プロジェクト部 |
| 沖縄 正会員 | 村吉 政人 | 建設 | 沖縄県中部土木事務所 総合技術監理 |
| 宮崎 準会員 | 緒方 祐樹 | 機械 | 都城市役所 |
| 熊本 準会員 | 李 疆 | 電気電子 | 東京エレクトロン九州株式会社 プロセス技術部基礎開発Gr |

〈令和7年9月〉

| (所在地)(区分) | (氏名) | (部門) | (勤務先) |
|-----------|-------|------|--|
| 長崎 正会員 | 門馬 弘昌 | 機械 | 三菱重工業株式会社エナジー ドメインスチームパワー事業 部技術部 |
| 大分 正会員 | 石井 直明 | 建設 | 大分県庁土木建築部 |
| 長崎 正会員 | 橋口 茂 | 建設 | E-tecsコンサルタント株式会社 総合技術監理 県央支社 |
| 福岡 正会員 | 橋元 健二 | 建設 | 中島測量設計 総合技術監理 |
| 沖縄 正会員 | 宮城 敦 | 上下水道 | 株式会社邦エンジニアリング |
| 長崎 正会員 | 竹下 朗 | 水産 | 弓ヶ浜水産株式会社 |
| 沖縄 準会員 | 比嘉 大成 | 建設 | 沖縄県企業局 |

協賛団体会員

| | | |
|--|---|--|
| <p>.....[福岡].....</p> <p>(株)エム・ケー・コンサルタント (株)カミナガ (株)建設環境研究所九州支社 (株)建設技術研究所九州支社 (株)久米総合コンサルタント 産業開発コンサルタント(株) (株)サンコンサル ジーアンドエスエンジニアリング株式会社 第一総合技術(株) 第一復建(株) 大成ジオテック(株) 大和コンサル(株) (株)高崎総合コンサルタント (株)テクノ 西鉄シー・イー・コンサルタント(株) 西日本技術開発(株) 西日本コントラクト(株) (株)西日本測量設計 日鉄鉱コンサルタント(株)九州本社 日本工営(株)福岡支店 日本地研(株) 富洋設計(株)九州支社 パンフィックコンサルタンツ株式会社九州本社 平和測量設計(株) (株)唯設計事務所 [北九州]..... (株)永大開発コンサルタント (株)松尾設計</p> | <p>.....[佐賀].....</p> <p>朝日テクノ株式会社 (株)エスジー技術コンサルタント 九州技術開発(株) (株)九州構造設計 (株)コスモエンジニアリング 新栄地研(株) (株)親和コンサルタント 精工C&C(株) (株)トップコンサルタント 西日本総合コンサルタント(株) 日本建設技術(株) シマウチエンジニアリング(株) [長崎]..... 扇精光コンサルタンツ(株) (株)実光測量設計 大栄開発(株) 太洋技研(株) (有)吉川土木コンサルタント [熊本]..... 旭測量設計(株) (株)ARIAKE (株)九州開発エンジニアリング (株)熊本建設コンサルタント (株)建設サポートセンター (株)興和測量設計 (株)ヒライ・コンサルタント (株)水野建設コンサルタント</p> | <p>.....[大分].....</p> <p>九建設(株) 協同エンジニアリング(株) ダイエーコンサルタント(株) 東洋技術(株) 東洋測量設計(株) 西日本コンサルタント(株) (株)日建コンサルタント 日進コンサルタント(株) 松本技術コンサルタント(株) [宮崎]..... (株)アップス 九州工営(株) (株)ケイディエム (株)国土開発コンサルタント (株)白浜測量設計 南興測量設計(株) (株)西田技術開発コンサルタント (株)東九州コンサルタント (株)都城技建コンサルタント [鹿児島]..... (株)久永コンサルタント (株)南日本技術コンサルタンツ (株)アジア技術コンサルタンツ 大福コンサルタント(株)</p> |
|--|---|--|

次回の予告
(第147号 令和8年4月)

○2025年度 九州本部12月度CPD

編集後記

第51回技術士全国大会(熊本・九州沖縄)が2025年10月25日(土)～28日(火)に無事開催されました。会場で交わされた議論はいずれも示唆に富み、専門性を深めることに加えて異分野の技術者同士が越境して意見を交わすことで新たな発想が生まれることを実感しました。

複雑化する社会課題に対応するには分野横断的な知見の融合が不可欠であり、様々な専門分野で構成されている技術士の多様性が強みだと改めて感じました。本大会で得た交流の手応えを地域活動や研鑽活動に活かし、実践的な社会課題解決に結実させていきたいと思っております。

(倉成)

編集：広報委員

【福岡】久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
原田 正則、松田 敦、倉成 真一
【北九州】宮崎 照美 【佐賀】合志 勉
【長崎】清水 正明 【大分】竹内 一博
【熊本】沼地 英二 【宮崎】神田 稔弘
【鹿児島】高畦 博

発行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
(博多石川ビル6階D2号室)
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印刷：株式会社チューエツ